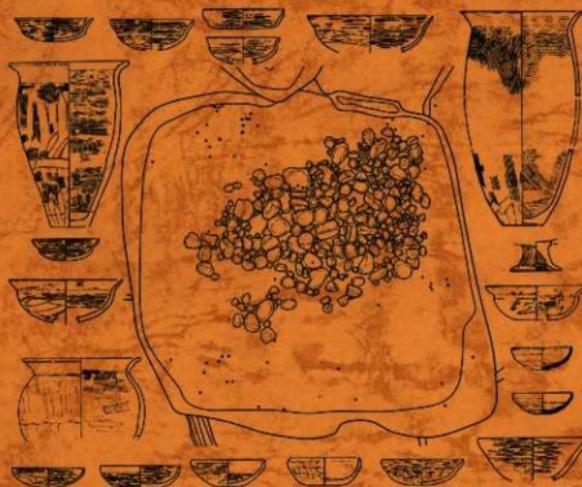


山梨県韮崎市

KA MI YO KO YA SI TE
上 横 屋 遺 跡

店舗建設に伴なう埋蔵文化財発掘調査報告書



1999

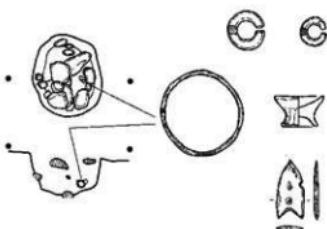
韮崎市教育委員会

韮崎市遺跡調査会

山梨県韋崎市

KA MI YO KO YA SI TE
上 横 屋 遺 跡

店舗建設に伴なう埋蔵文化財発掘調査報告書



1999

韋崎市教育委員会
韋崎市遺跡調査会

序 文

並崎市を貢流する塙川の右岸は、古くから「藤井平」と呼ばれ、肥沃で歴史のある土地柄となっています。この「藤井平」に広がる宮ノ前遺跡、後田堂ノ前遺跡、三宮地遺跡や堂ノ前遺跡から出土した数多くの埋蔵文化財を調査した結果、「藤井平」という肥沃な土地に昔から多くの人々が生活していましたことが明らかになってきました。

今回ここに報告する「上横屋遺跡」は並崎市藤井町北下条字上横屋地内に株式会社しまむら並崎支店の出店に伴う事前調査の結果判明した遺跡であります。

上横屋遺跡からは弥生時代後期、古墳時代後期と奈良・平安時代の人々の住まいや生活道具が数多く発見されました。その中には並崎市では初の耳環や青銅製腕輪などを挙げることができます。これは山梨県内でも発見例は非常に少なく、「藤井平」の肥沃な土地を背景にした人々の力強さを感じさせられます。また、人々の住んでいた堅穴住戸も数多く発見され、それらは似た作りではあるものの、それぞれ作り方に個性があることがわかつきました。その他にも本文の中に掲載した様々な資料が発見されました。

このように古くから豊かな歴史のあるこの地域で開発の前に発掘調査が行われたことは実に意義深いことであり、貴重な発見の多かった「上横屋遺跡」の報告書を刊行できたことは喜ばしいことであります。更に、今回の調査により本市の歴史を再認識する機会となれば、望外の喜びであります。

最後になりましたが、遺跡発掘調査を並びに報告書作成に関係して、多くなる御理解と御協力を賜った関係諸機関および関係者の皆様方に深く感謝申し上げる次第であります。

平成11年3月31日

並崎市遺跡調査会
会長 小野修一

並崎市教育委員会
教育長 興石薰

例

- 1 本書は、山梨県韮崎市藤井町北下条506番地外に所在した上横屋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社しまむらの店舗建設に伴いおこなった。
- 3 発掘調査は、株式会社しまむらから委託を受け韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。
- 4 本書の執筆・編集は、秋山圭子・閑間俊明でおこなった。文責はⅠ章を閑間、Ⅱ章を秋山である。Ⅲ章及びまとめは秋山と閑間で検討しまとめたものである。
- 5 整理作業及び報告書作成にかかわる業務は韮崎市遺跡調査会が実施した。調査担当・調査員以外の修理業務参加者は、阿部由美子・石原ひろみ・岩下雅美・上野理江・小野初美・清水由美子・深沢真知子である。
- 6 写真測量は株式会社フジテクノに委託しておこなった。
- 7 発掘調査及び本著作成に際しては、以下の方々から貴重なご教示・ご指導を得た。ご芳名を記して厚く感謝申し上げる次第である。及川良彦(東京都埋蔵文化財センター)、小池岳志(茅野市教育委員会)、合田芳正(中央大学講師)、山口正應(青山学院大学大学院)、内山幸子(筑波大学大学院)、渡辺淳(青山学院大学)、山路恭之助(須木町教育委員会)、伊藤公明、渡辺康彦(大泉村教育委員会)、小野正文、森原明廣(山梨県教育委員会)、小林健二、石神

凡

- 1 遺構・遺物の縮尺は原則として各図毎に示す。
- 2 遺物実測図の番号は遺物の種類に関わらず住居毎に連番を付した。観察表及び本文中の番号は対応している。
- 3 遺構断面図内に斜線で示した枠は縦である。また、地山に含まれる縦も同様に示した。
- 4 紙数の関係で遺物出土状況のみに実測図を示した石器があるが、詳細は観察表をご参照いただきたい。
- 5 遺構図版の遺物接合線は同一個体を便宜的に結んだものであり、破片同士の接合関係を示したものではない。
- 6 遺物観察の基準は以下の通りである。
 - ・層位 上層=複土上層から出土したもの
下層=複土下層から出土したもの
床直=床面に接する状態で出土したもの
フク士=詳細な層位が不明なもの
カマド周=カマドの周辺から出土したもの
カマド内=カマド内から出土したもの
 - ・色調 農水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色粘」を用いて土色名で記した。
 - ・器種 分類に関しては森原明廣氏の「山梨県地域における古墳時代後期の土器様相」「東国土器研究4」を参考にしたが、「A-A2」の大型化したものに関しては「大型环」とした。また、観察表以外の器種分類も、同様である。

言

孝子(山梨県埋蔵文化財センター)、北巨摩郡文化財担当者会(順不同・敬称略)

8 発掘調査及び整理業務によって出土並びに作成された資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調査組織

1 調査主体 韮崎市遺跡調査会

2 調査担当 秋山圭子・閑間俊明・山下孝司(韮崎市教育委員会社会教育課)

調査員 伊藤正彦(試掘)(現甲府市教育委員会)

調査参加者

岡本嘉一・飯野洋美・秋山東・根岸利昭・秋山啓・小沢栄子・小沢高憲・小沢治代・小田切昭子・乙黒きくゑ・小沢千代子・小沢久江・小沢あやめ・保坂宮子・飯室マリ子・今福富子・乙黒正江・乙黒よしこ・渡辺都子・柄沢真路・阿部山美子・石原ひろみ・岩下雅美・上野理江・小野初美・清水由美子・深沢真知子・内山幸子(順不同・敬称略)

4 事務局(韮崎市教育委員会社会教育課)

教育長 奥石 煉(前任)口野道男

課長 山本雄次

課長補佐 深沢義文

係長 藤巻明雄

主事 水上和樹

例

7 住居跡の重複した部分に関しては、時期の古い順に図示した。

8 遺物実測図中の「●」は外面黒色処理、「○」は内面黒色処理、「◐」は外面黒色処理を示している。また、スクリーントーンは赤色処理を示し、断面塗りつぶしは須恵器であることを示している。また図中の「-」線は指などでの下限を示している。

9 遺物出土状況図で示した遺物の縮尺は土師器・須恵器等は1/8であり、石器は1/16である。なお、紙面の関係で出土状況図に載せなかった遺物に関しては遺物番号を付し(遺物図面では*住-*としたが出土状況図では*-*とした)遺物図面との照合を図った。

10 遺構平面図及び遺物出土状況図の遺物出土位置を示す記号は基本的に「●」であるが、層位別や遺物の個体別などで記号を変えている場合がある。その具体的な内容は各図に付した。

11 法量は口径・器高・底径の順で示した。

12 本報告書作成には数多くの文献を参考にしたが紙数の関係上すべて省略させていただいた。使用させていただいた文献の著者の方々に感謝し、非礼をお詫びする次第です。

目 次

目 次

序 例	文 言	23
凡 例		23
目 次		23
挿 図 目 次		24
表 目 次		25
写 真 図 版 目 次		25
I章 発掘調査の経緯と概要	1	26
II章 遺跡の立地と環境	1	26
III章 遺構と遺物	5	27
ま と め	53	27
写 真 図 版		28

挿図目次

第1図	上横屋遺跡と周辺の遺跡及び地形概念図	2
第2図	調査地区位置図及び周辺遺跡の遺構配置図	3
第3図	上横屋遺跡遺構配置図	4
第4図	1号竪穴住居跡	9
第5図	5号竪穴住居跡	10
第6図	6・9号竪穴住居跡	11
第7図	7・8・10・11・12号竪穴住居跡	12
第8図	7号竪穴住居跡カマド	13
第9図	8号竪穴住居跡カマド	13
第10図	12号竪穴住居跡遺物出土状況	13
第11図	11号竪穴住居跡(カマド・遺物出土状況)	14
第12図	10号竪穴住居跡(カマド・遺物出土状況)	15
第13図	13号竪穴住居跡	16
第14図	15号竪穴住居跡	16
第15図	14・16・17・29号竪穴住居跡	17
第16図	17号竪穴住居跡(カマド・遺物出土状況)	18
第17図	14号竪穴住居跡(カマド)	19
第18図	9号竪穴住居跡(カマド)	19
第19図	16号竪穴住居跡(礫面及び遺物出土状況)	20
第20図	18号竪穴住居跡	21
第21図	21・30号竪穴住居跡	21
第22図	19・20・23・26号竪穴住居跡	22

第23図	26号竪穴住居跡(遺物出土状況)	23
第24図	19号竪穴住居跡(カマド)	23
第25図	20号竪穴住居跡(カマド)	23
第26図	23号竪穴住居跡(カマド・遺物出土状況)	24
第27図	22号竪穴住居跡	25
第28図	25号竪穴住居跡	25
第29図	27号竪穴住居跡	26
第30図	28号竪穴住居跡	26
第31図	1・2・3号掘立柱建物跡	26
第32図	土坑	27
第33図	斂状遺構	27
第34図	溝	28
第35図	溝状遺構	28
第36図	1・5・6・8号竪穴住居跡出土遺物	29
第37図	7・9・10号竪穴住居跡出土遺物	30
第38図	10・11号竪穴住居跡出土遺物	31
第39図	12・13・14号竪穴住居跡出土遺物	32
第40図	14・15・16号竪穴住居跡出土遺物	33
第41図	16号竪穴住居跡出土遺物	34
第42図	17・18号竪穴住居跡出土遺物	35
第43図	18・19・20号竪穴住居跡出土遺物	36
第44図	22・23・26号竪穴住居跡出土遺物	37
第45図	25・28号竪穴住居跡出土遺物	38
第46図	29号竪穴住居跡・土坑・包含層出土遺物	39

写真図版目次

上横屋遺跡遠景	
図版 1	1・5・10号竪穴住居跡
図版 2	10・11・15号竪穴住居跡
図版 3	19・20・23・26号竪穴住居跡 調査風景
図版 4	14・16号竪穴住居跡
図版 5	16・17号竪穴住居跡
図版 6	14・18・22・25号竪穴住居跡
図版 7	27・28号竪穴住居跡 1・2号掘立柱建物跡 C3-1・B3-1号土坑
図版 8	斂状遺構・出土遺物①
図版 9	出土遺物②

I章 発掘調査の経緯と概要

1節 発掘調査の経緯

平成8年11月に株式会社しまむらより店舗建設に関して、藤崎市教育委員会に埋蔵文化財の有無確認依頼が提出された。これにより市教育委員会では、同年11月に試掘調査により埋蔵文化財の有無確認を実施し、店舗建設予定地内が埋蔵文化財を包蔵していることを確認し、上横屋遺跡とした。その結果を踏まえて、市教育委員会と会社とで協議をおこない、市教育委員会は埋蔵文化財が包蔵され店舗建設により破壊される約900m²の範囲に関して、建設工事に先立ち、地中に静かに眠っていた遺構・遺物の記録を作成し、当地域の歴史を雄弁に伝える資料として、市教育委員会にて後世に伝えるために保管・活用することとした。

2節 発掘調査の概要

発掘調査は平成10年9月21日から平成11年1月14日までおこない、その後報告書作成のための整理作業に入り、完了したのは同年3月31日である。

調査範囲の耕作土を重機によりはがし、水田床土直下面の暗灰褐色土層から黒褐色上層の遺物包含層面で遺構の確認作業をおこなった。発掘調査、遺構測量の基準として5m包含を設定し、西から東方向にA・B・C…G、北から南方向に1・2・3…9とグリット番号を付けた。

各遺構は10分の1、20分の1で測量及び岡面作成をおこない、全体図は航空写真測量によって実施した。

調査の結果発見された遺構は、弥生時代後期の堅穴住居跡6軒、古墳時代後期の堅穴住居跡15軒、奈良・平安時代の堅穴住居跡3軒、時期不明の堅穴住居跡3軒、古墳時代以降の掘立柱住跡3棟及び青銅製輪輪の出土した上埴などである。遺物は各時代の道具がプラスチック箱で約40箱分出土し、復元等の整理作業により藤井平のみではなく山梨県の歴史を雄弁に語りうる資料であることが出土品によつても確認された。

II章 遺跡の立地と環境

1節 遺跡の立地(第1図)

上横屋遺跡は山梨県韮崎市藤井町北下条字上横屋地内に所在する。

遺跡のある韮崎市は、釜無川と塙川が南北に貫流している。いずれも長い間に開削を続け、釜無川はその右岸に河岸段丘、左岸に比高差約50~70mにおよぶ七里岩(韮崎台地)を、塙川はその右岸に広大な河岸段丘をつくりだした。塙川左岸は茅ヶ岳へと続く丘陵になっており、この2河川により韮崎市の地形は4つに区切られている。そして、七里岩と塙川右岸の河岸段丘は、あいだに黒沢川をはさんで隣り合う形になっている。

遺跡はこの塙川右岸の南北約9.5kmにおよぶ広大な河岸段丘上にあり、北に八ヶ岳、東に茅ヶ岳を臨む。この段丘は藤井平とよばれる肥沃な稲作地帯で、その豊かな地力は、古人々がこの地を選ぶ大きな要素となっている。現在は一見平坦にみえるが、過去の塙川の激しい流路の変化によって、自然堤防状の埋没高地が散在していることがわかっている。藤井平ではこの埋没高地に遺跡が点在しており、上横屋遺跡も同様、埋没高地に立地し、標高約377mを測る。遺跡は段丘上の塙川に近い部分に位置し、約700mの距離を置いて西には黒沢川、そしてその西に七里岩が屹立する。

2節 遺跡の環境(第2図)

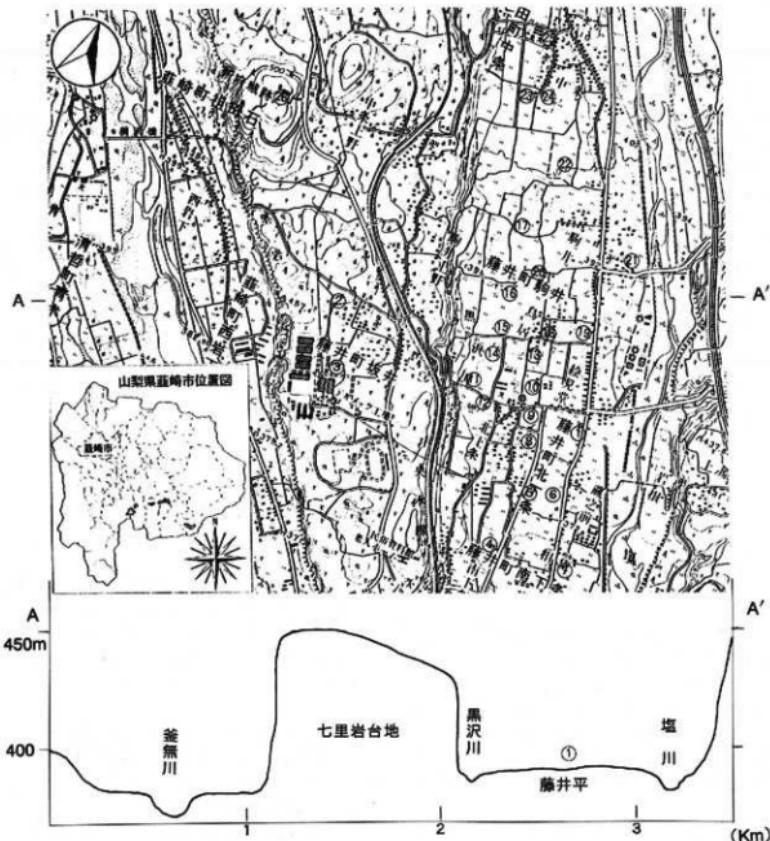
第1図のとおり、藤井平には多くの遺跡が存在する。その中でも上横屋遺跡周辺には、ほぼ同時期の遺構・遺物を出土した遺跡がいくつか存在している(第2図)。

弥生時代後期には、上横屋①・堂の前②・後田堂ノ前③・後田第2④遺跡、南北にやや離れて北下条・下横屋⑤・中田小学校⑥遺跡がある。

古墳時代後期には、上横屋遺跡⑦・坂井堂ノ前⑧・後田堂ノ前⑨・後田第2⑩遺跡がある。この時期の遺跡は、上横屋遺跡の周辺に集中する。またほぼ同時期に火雨塚古墳⑪も存在していたと思われる。

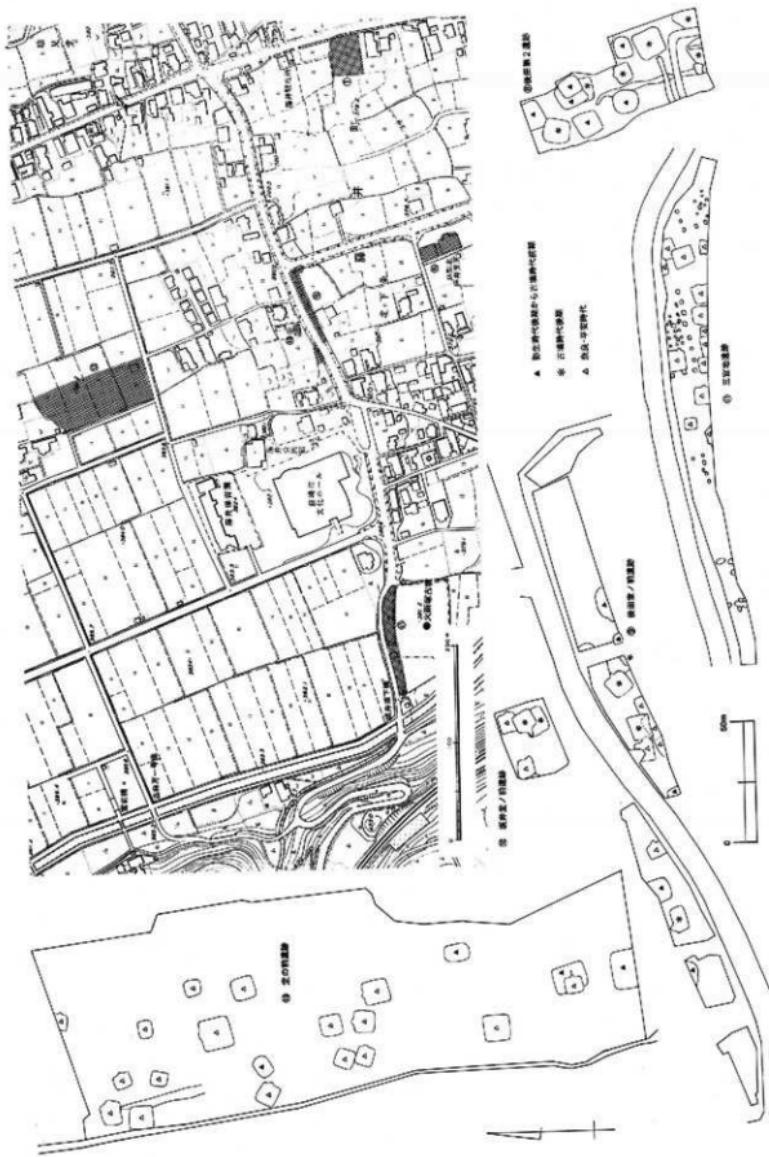
奈良・平安時代になると、まんべんなく遺跡が発見されている。上横屋遺跡周辺でも、堂の前⑫・坂井堂ノ前⑬・後田堂ノ前⑭・後田第2⑮・三宮地⑯遺跡がある。

このように上横屋遺跡が形成された時期には、常にその周辺でも生活の跡が見られることがわかる。そのなかで古墳時代後期には、上横屋遺跡周辺だけに遺跡が集中し、隣接して火雨塚古墳が存在する。これは該期の集落と古墳の空間配置を示す可能性のある、特筆すべき点であろう。

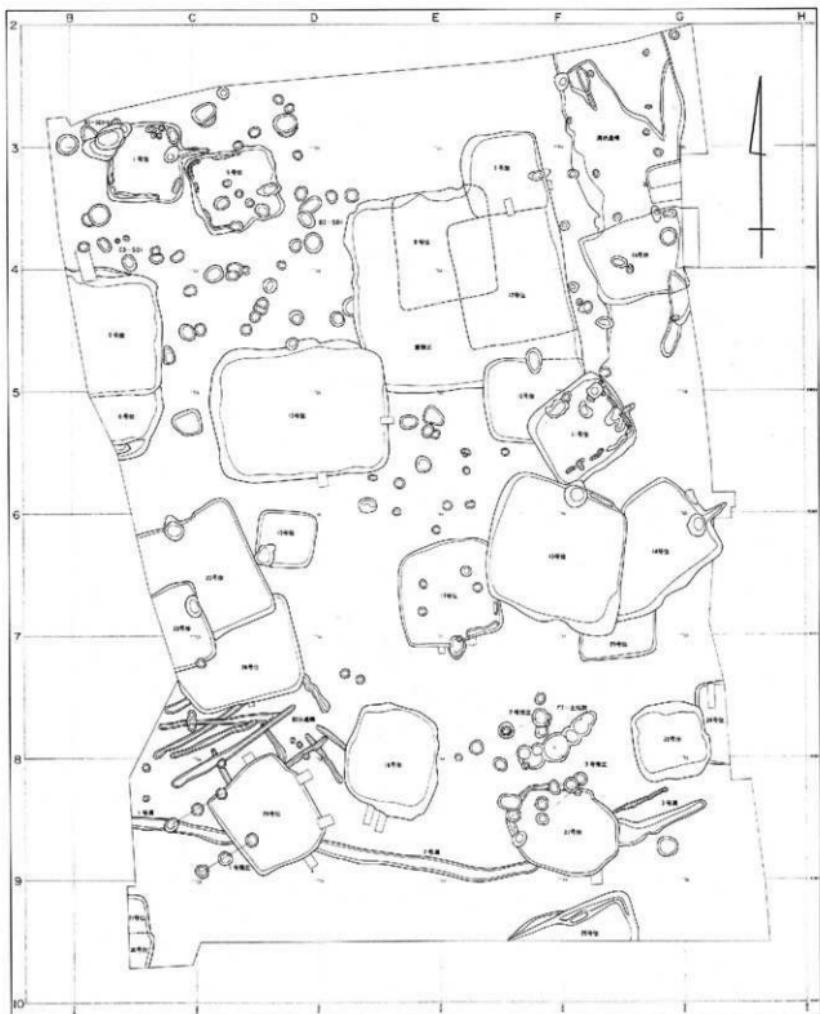


遺跡名	遺跡名	遺跡名
1 上横屋遺跡	10 板井堂ノ前遺跡	19 宮ノ前第4遺跡
2 坂井遺跡	11 三宮地遺跡	20 宮ノ前第5遺跡
3 坂井南遺跡	12 火雨塚古墳	21 駒井遺跡
4 山影遺跡	13 堂の前遺跡	22 立石遺跡
5 北下条遺跡	14 後田遺跡	23 金山遺跡
6 下横屋遺跡	15 北後田遺跡	24 前田遺跡
7 枇杷塚遺跡	16 宮ノ前遺跡	25 中田小学校遺跡
8 後田第2遺跡	17 宮ノ前第2遺跡	26 新府城跡
9 後田堂ノ前遺跡	18 宮ノ前第3遺跡	

第1図 上横屋遺跡と周辺の遺跡及び地形概念図



第2図 調査地区位置図及び周辺遺跡の遺構配置図



第3図 上横屋遺跡遺構配置図(1:200)

Ⅲ章 遺構と遺物

遺構は、堅穴住居跡27軒・掘立柱建物跡3棟・土坑及びビック111基・溝3条・戸状遺構・溝状遺構を確認し調査を行った。各遺構について基礎的なデータは観察表に記し、以下に各遺構毎の特徴(遺物出土状況やカマド構造など)と出土遺物について報告する。

・1号堅穴住居跡

カマドは東壁の北寄りに作られ、約1mもの煙道がある。袖石が1組残っており、カマド内からは小型の楕(1-1)などが出土している。遺物は、住居上層の壁際と、壁から約20cm離れたところで異なる大きさの青銅製の耳環が2点(1-19・20)出土している。いずれもメッキが施されていたようである。他に楕のミニチュア土器(1-14)も出土している。この住居は覆土と床直上から弥生土器が多く出土し、該期の住居が重複している可能性がある。

・5号堅穴住居跡

カマドは東壁のやや南よりに作られている。袖石は5組残っており、中央からは外側に直交して袖石が伸びる。この袖石の南部分と住居東壁の間は、住居内の覆土とは異なったやや固い土で、レベルも10cmほど高かった。カマド横に棚状に設けられた施設の可能性がある。カマド内からは坏が2点(5-2・6)出土している。

・6号堅穴住居跡

9号住居の重複を受けている。カマドは確認できず、住居形態も不明であるが、住居南側に段状の平垣部が2段みられる。遺物は、表面を面取りして直方体にした円筒土器(6-3)や坏(6-1)などが出土している。

・7号堅穴住居跡

カマドは東壁の南寄りに作られている。袖石はわずかに2・3組みられるだけで、原形は不明である。カマドおよび周辺から坏が3点(7-1・7-8)出土している。またこの住居覆土から須恵器の提鉢と思われるもの(7-9)が出土している。住居南側は12号、南西側は8号住居を重複により破壊している。

・8号堅穴住居跡

カマドは北壁に作られている。袖石を1組残すのみで、明瞭な掘りこみは見られなかった。壁は北側のみを残し、東側は7・12号住居の重複を受けている。南・西側は重複区が統合しており、重複関係などは確認できなかった。遺物は下層から須恵器蓋(8-1)、床直上で赤彩高坏(8-2)、凹石(8-4)などが出土している。

・9号堅穴住居跡

カマドは北壁に作られている。カマドの半分は調査区外となる。袖石が1組だけ残り、断面には粘土・焼土・炭化物層が確認された。カマドに向かって右側の北壁には段状に平坦部がみられる。遺物は楕(9-2)、ミニチュア高坏(9-8)のほか、放射状を意識した暗文施文で、底部に静止系切痕を残す坏(9-1)が出土している。また、覆土中の遺物が1号住

居の遺物と接合している。

・10号堅穴住居跡

カマドは北壁に作られている。明瞭に粘土が残っており、約40~60cmほどの細長い大槻で石組みしたあとに粘土で固めている。住居中心部では、覆土隙面で焼上層が広がり、そのあたりは住居廃絶後のくぼ地を利用した何らかの行為を示している可能性がある。遺物はカマド内から長胴壺(10-6)、床面で上器集中(10-1)、覆土から磨製石斧(10-7)も出土している。覆土中の遺物が11号住居と16号住居上層の遺物と接合する。

・11号堅穴住居跡

カマドは東壁の南寄りに作られている。住居内の周溝を作つてから、周溝を壊さない程度の深さのかまどを作ったと思われる。炭化材が、四方から住居中心に向かって求心的に検出されており、焼失住居と思われる。遺物は床面から高坏、坪、長胴壺、球胴壺、鉢など甌以外のほぼすべての器種が出土している。その分布に大きな偏りはないが、高坏が南側に集中し、甌がかまどから離れた部分に見られるという特徴は見られる。また、磨製石鏡(11-10)が出土している。

・12号堅穴住居跡

東壁のみを検出した。北側が7号住居と重複し、西側は8号住居を重複により破壊している。カマドは確認されなかつたが、床面の高さの違いなどから住居とした。8号住居との重複部分では、わずかに粘土を伴う30~40cmの塊が集中する。遺物は覆土から十字の刻みと5本の縦線を施された坏(12-1)などが出土している。また、この住居の西から鉄製鋸車が出土している。

・13号堅穴住居跡

坪・周溝・柱穴いずれも確認されなかつた。遺物は赤彩されたものが多く、甌・甌が出土している。なお、住居北の上坑から馬の前脚が3本出土している。

・14号堅穴住居跡

堅穴内覆土下層から上層にかけて礫が散逸して出土した。また、遺構確認時に南側に沿つて礫が立石状に並んでいた。これが住居の付属施設なのか、住居廃絶後に発生したものかは不明であるが、古墳時代後期の住居跡で類例は皆見では見当たらない。

カマドは良好に遺存していた。確認段階で壺の掛口が明瞭に把握でき、その直下の燃焼面から棒状礫を用いた支脚が2点(14-13・14)出土した。また、焼き出し口も確認した。両袖には大型の礫をそれぞれ3点づつ袖石として用いている。掛口と堅穴壁の境には大型の盤上礫を用いている。煙道の長さは80cmである。

遺物は、楕(14-6・7)が床面に接し、カマドからやや離れて出土した。坏では坏A-3がやや多く出土している。

・15号竪穴住居跡

カマドは東壁の北寄りに作られている。袖石がわずかに残るのみだが、断面からは粘土・焼土・炭化物層が確認された。南北が溝状構と重複していて、南側はわずかに壁と思われる立ちあがりが確認できた。遺物は大型壺(15-2-3)、卓孔のやや小さい壺(15-7)などが出土している。

・16号竪穴住居跡

本竪穴住居跡は床面直上の炭化物層の存在から焼失住居跡である。しかし、遺構確認段階から異質な様相を呈していたことからその状況を以下に報告する。

確認段階では、第19図の第一縦面図で示したように、竪穴内に5.4m(東西)×3.5m(南北)の縦の集中を確認した。それを構成する縦は10~50cmであり熱は受けた様子はなかった。また、大きめの礫は中心部に多く、外周(竪穴の壁側)に小さめの礫がまとまっていた。第一縦面を取り除き掘り下げたところ、第19図の第二縦面とした。3.3m(東西)×2.4m(南北)縦の集中を確認した。それを構成する縦は20~50cmであり、第一縦面同様に熱を受けた様子はなかった。第一縦面と第二縦面との間に暗黒褐色の粘性やしまりの極めて強い土層が存在し、その層には骨粉が含まれていた。これらの縦は住居廃絶後の竪穴の二次的利用によるものと考えられるが、床面・カマド内の出土土師器と縦面出土土師器には型式差を認めることはできない。このようのことから、住居廃絶後の極めて短期間に竪穴が利用されたようである。

カマドは、袖石等が崩れており遺存状況としては良好とはいえないが、カマド内およびその周辺からはまとまりを持つて遺物が出土した。また、本カマドの特徴として、塵を敷いた面を燃焼面としていることを挙げることができる。

遺物は、各層から出土しているが、縦面及び縦面に挟まれた層からの出土量は少ない。壺が他遺構と比較して多く出土するとともに、大型壺も出土している。弥生後期の土器が出土しているが、本遺構に伴うものではなく、本来重複する29号竪穴住居跡の覆土中に含まれていたものと考えるべきであろう。

・17号竪穴住居跡

やや浅い柱穴と考えられる4基のピットを確認した。また、竪穴内中央からカマドにかけて硬化面が広がる。

カマドは南に構築されており、竪穴壁部に袖石が設置されていることから、掛口は竪穴外に存在していたことは間違いない。竪穴外にも住居空間が広がっていたことを示すものである。カマド内からは、円筒型土器(17-9)や高壺(17-6)などが被損した状態で出土している。また、カマド正面から右側の床面に接する状態でまとまりをもって土師器が出土している。

・18号竪穴住居跡

炭化材が竪穴の中央に向かって重心的に出土しており、建築部材の一部と考えられる。

遺物は弥生時代後期の土器が中心に出土した。床面に接して大型壺の底部(18-15)が埋えられた状態で出土している。

この土器の底面には砂粒が大量に付着しており、土器製作時の遊離材として砂が用いられていたことを示している。また上層と下層の境界付近からコンパス文を施した東海系の大壺蓋(18-13)が出土した。

・19号竪穴住居跡

竪穴住居の東側の地山は砂層であり、壁としては極めて脆弱であるが、嵌押さえ等の痕跡は確認できなかった。

カマドは南西角に作られていた。掛け部と推定される部分から要(19-1-3)が2個体分(胴部下半のみ)出土している。また、炊出部を明確に検出したが、灰等は確認できなかった。

遺物はカマドの掛け部から出土したものの他に、床面に接して壺(19-1-2)が出土した。なお、壺では壺Cのみが出土し、その他は皆無であった。

・20号竪穴住居跡

カマドは東壁の中央や北寄りに作られている。袖石には40cm程度のやや幅半疊を用い、5・7層により固められている。固める際に袖石の上面に直径5から10cm程度の円疊を構築材としていた。煙道の煙出部に、二次的に熱を受けた長頭甕の胴部片が出土しており、故意に設置した可能性もある。

・21号竪穴住居跡

竪穴の多くのを調査区外に残しており詳細は不明である。

・22号竪穴住居跡

北西角から竪穴内中央の床面から下層にかけて20から50cm程度の疊がまとまりをもって出土した。また、長甕壺(22-3)がその疊のまとまりの中からはほぼ完形の状態で出土した。これらの疊や須恵器は住居廃絶後の自然流人とは考えにくく、人為的な構造物が住居廃絶後に作られた可能性が高い。

・23号竪穴住居跡

床面に接する状態で疊、石器や土師器が出土している。疊は竪穴内南東角付近と西側で特にまとまりをもって出土した。

カマドの天井部は崩落していたが袖石などの構築物は比較的良好に残っていた。遺物では古墳後期には姿を消していた形状の支脚(台盤状土製品、23-12)や長甕壺の胴部上半が出土している。

遺物は床面に接して出土したが多い。大型の台石4点も床面に接して出土している(23-15・16・17)。その他に壺や甕等が出土したが、器種不明(甕底部の再利用か)なもの(23-14)がカマド内から出土した。

・24号竪穴住居跡

調査区外にその多くを残しているため詳細は不明である。遺物は出土していない。

・25号竪穴住居跡

北壁中央から東には二段の平坦面があり、覆土の堆積状況から本住居の付属施設であると考えられる。また、北壁中央から西側には本住居の推定平面プランの外側に掘り込みの存在を確認したが、他遺構との重複なのか本住居の

付属施設かどうかは不明である。

東壁の床面にはほぼ接する状態でやや細長い礫がまとまつて川上しており、おそらく「織物石」と考えられる(52頁表)。

覆土の2層は炭化材や灰白色粘土を中心に構成されている層であるが、炭化材に接して粘土が広がっており、上屋根が焼け落ちた可能性がある。

調査範囲は狭いが遺物の出土量は多い。床面に接して壙(25-19)が出土したことが特徴的である。

・26号堅穴住居跡

南西角周辺の床面に接する状態で20から40cm程度の礫および完形の壙(26-4)が出土した。

・27号堅穴住居跡

掘り上がりの平面形態は橢円形であるが、調査時には壁は明確ではなく、床面の硬化面および周溝の広がりのみで判断したため、本来の堅穴の形態とは異なる可能性が高い。

図示し得る出土遺物はなかったが、弥生時代後期と考えられる壙の胸部片などが出土している。

・28号堅穴住居跡

住居内中央から南・西壁にかけて硬化面が認められた。

南壁際から土製錠鉢車(28-6)、北壁近くの覆土から壙部が直線的に開く高壙(28-5)や小型鉢(28-3)などが出土した。また、床面に接して、口縁部から胸部上半に櫛描波状文の施された壙(28-4)が出土している。

・29号堅穴住居跡

14-16号堅穴住居と重複し、それらより古い住居である。遺物は床面に接して、櫛描波状文や巻状文の施された壙(29-2)や頭部に無節R縄文の施された壙(29-5)などが出土している。また、14-16号堅穴住居跡から出土した弥生時代の土器は本住居跡に本来所属していた可能性がある。

・30号堅穴住居跡

21号堅穴住居跡と重複関係にあるが、その多くは調査区外にあり詳解は不明である。

・重複区

7-8・10-12号住居周辺が激しい重複により、一面に覆土が広がる状況であった。そのため重複区に任意にセクションベルトを残し、発掘調査段階で確認できた住居には番号をつけた。以下に、住居番号をつけなかった部分についてグリッド毎に特徴を述べる。

・D3グリッド(8号住居跡東) 珠胸壙の底部・放射状筋文の施された壙など、古墳時代後期と奈良・平安時代の遺物が見られる。また、小型の壙A2が目立つ。

・D4グリッド(8号住居跡南東) 出土する壙の中では壙A3が多い。また、鉄製の劫鉢車(包-28)が出土している。

・2号・3号住居

2号・3号住居跡は、調査の初期の段階で住居と認定したが、礫およびカマドが検出されなかつたので、住居ではないと判断した。しかし、2号住居跡に該当するC2グリッドから古墳時代後期の遺物が多く出土し、3号住居跡に該当す

するC3グリッドからは長胸壙・壙A3が多く出土しており、いずれも住居であった可能性が高い。

・1号掘立柱建物跡

1間×2間の掘立柱建物跡である。各柱穴に柱痕を観察でき、明瞭ではないが版築状に柱を支えた状況を確認した。なお、棟持柱を確認している。

・3号掘立柱建物跡

1間×1間の掘立柱建物跡である。

・B3グリッド 1号土坑(B3-SD1)

土坑内から青銅製の胸輪が出土している。胸輪は土坑底部の縁にはまる形で発見された。

・B3グリッド 2・3号土坑(B3-SD2・3)

1号住居跡の西側を重複により破壊している。また、I:坑北東部は1号住居跡内1号土坑の重複を受けている。上層から5・6層がある程度堆積した後に4層が堆積していることがわかる。

・C3グリッド 1号土坑(C3-SD1)

土坑の上面で、大型壙(C3SD1-3)と壙(C3SD1-1)が入れ子の状態で出土した。また壙から壙A3(C3SD1-2)の破片が出土している。入れ子状の遺物は、礫のすぐ脇で出土しており、出土状況から、人為的に入れ子状にして土坑に埋設されたものとおもわれる。

・F7グリッド 土坑群(F7-SD)

西端の土坑から大型の壙(F7SD)の破片が伏せられたように出土している。この壙は焼成後の穿孔の痕があり、土坑群の中で唯一の遺物であった。また、土坑群東端の土坑からは、底部辺りから一面に、炭化物が約5cmほどの厚さで出土した。なお、壙の破片は、18-13に極めて類似している。

・畝状遺構

東西方向のものを7条、南北方向のものを5条確認した。確認面は他遺構と同じ面であり、また同一面では同様な遺構をF8グリッド内で1条確認した以外は確認し得なかつた。

・1・2・3号溝

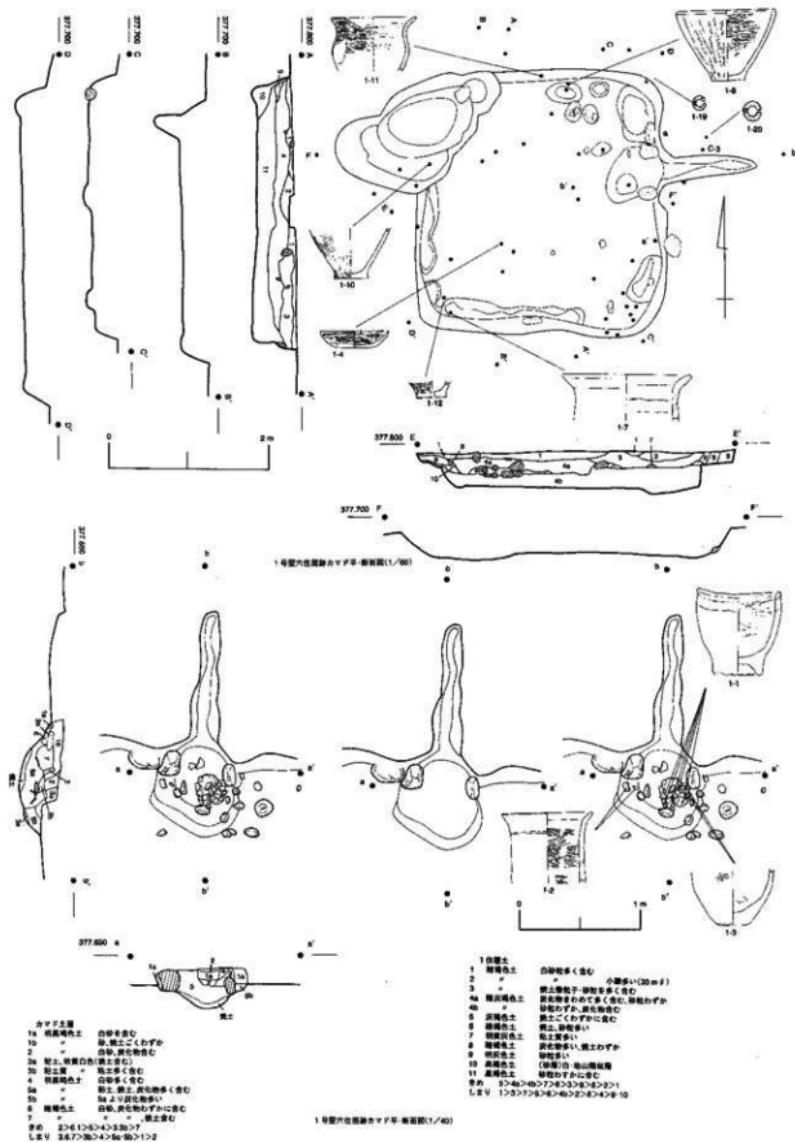
東西方向に走る溝である。1号溝と2号溝の間は約2m空間が存在していた。2号溝と3号溝の重複関係などは確認できなかつた。しかし、これらの溝は規模や覆土などから一つの遺構と捉えることができる。

・溝状遺構

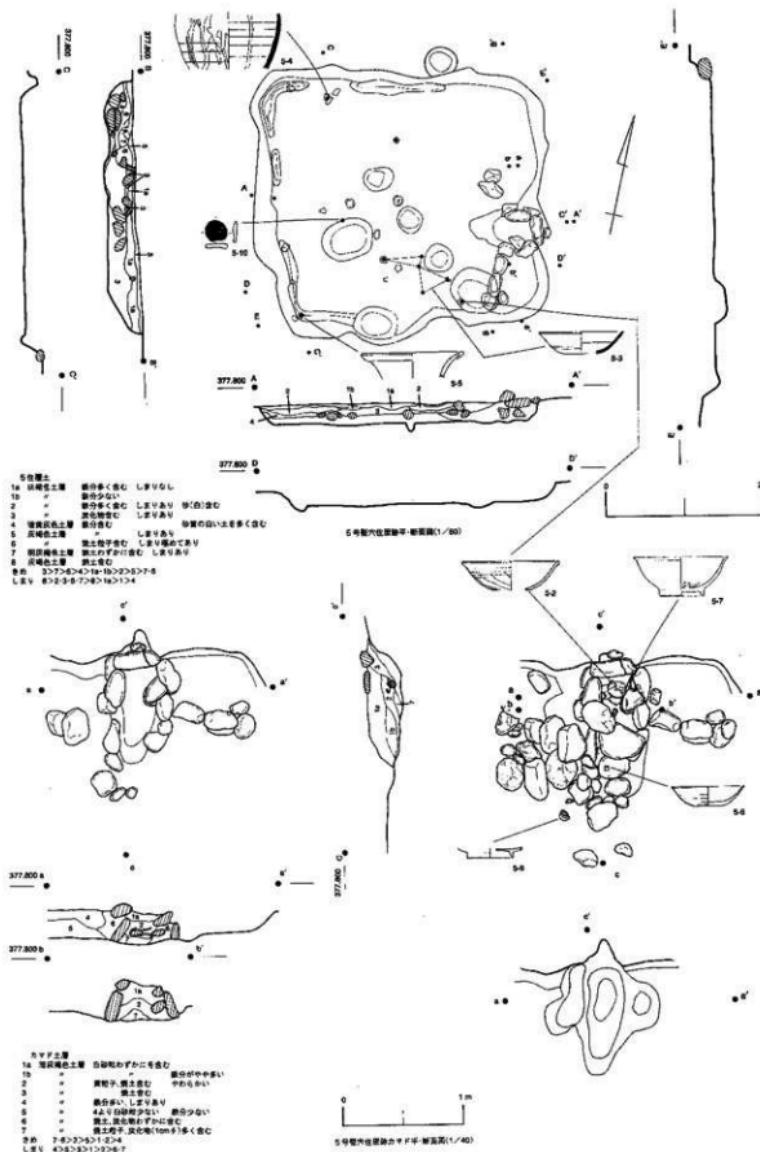
F2-F3グリッド周辺には、覆土が約4~5mの幅で南北に堆積していた。溝とするには遺構内の底面に規格性がなく、幅も立ち上がりも一定ではない。そこで、この覆土の帶を溝状遺構とした。断面観察から、遺構は自然堆積によって埋まっていたことがわかる。

造構観察表

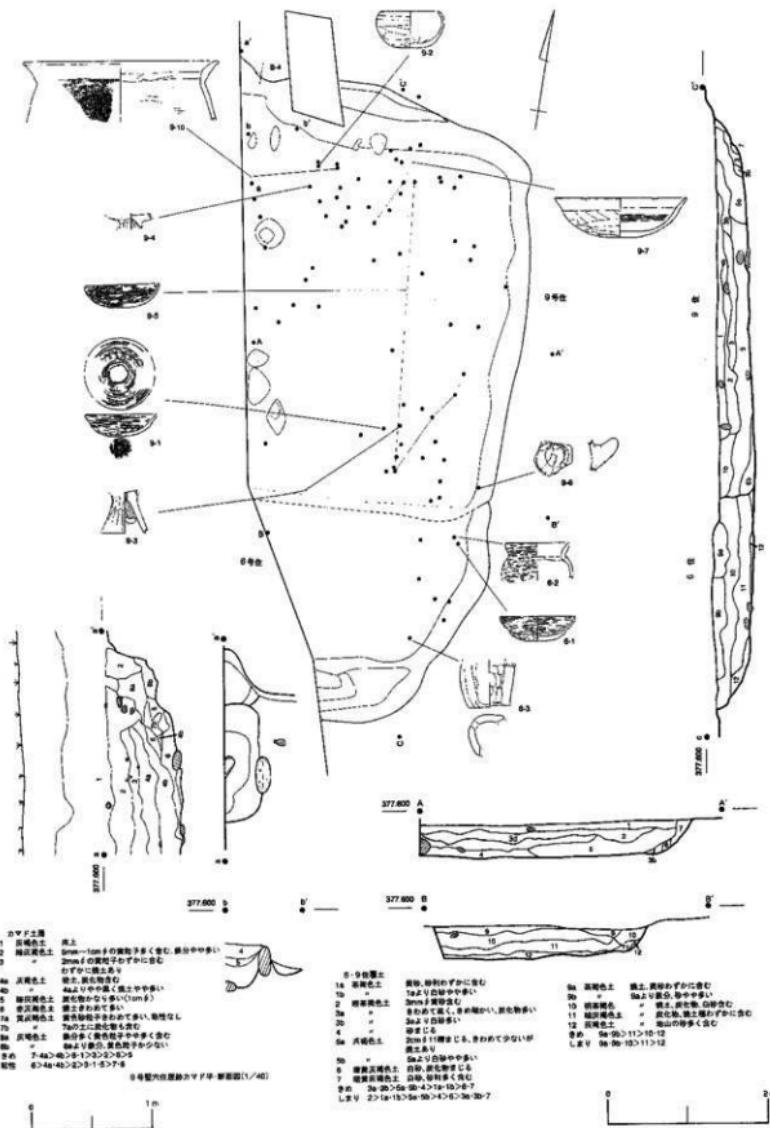
遺構名	位置	上輪方位 東西南北n	平面形態	重複關係	カマド位置	時期	備考	
1号竪穴住居跡	B2-B3	N-82°-E	2.8×2.1	方形	東カマド・北寄り	古墳時代後期	耳環出土	
5号竪穴住居跡	C2-C3	N-76°-E	3.7×3.0	方形	東カマド・南寄り	平安時代		
6号竪穴住居跡	B4-B5	-	-×	方形	6住-9住	-	古墳時代後期	
7号竪穴住居跡	E3	-	-	方形	8住-12住-7住	東カマド・南寄り	平安時代	
8号竪穴住居跡	D3-E3	N-41°-W	-	方形	8住-12住-7住	北カマド・東寄り	古墳時代後期	
9号竪穴住居跡	B4	N-15°-W	-×	5.0	6住-9住	北カマド・中央	古墳時代後期	
10号竪穴住居跡	E4-E5-F4-F5	N-5°-W	4.1×3.5	方形	29住-14-17住-16住-10住-11住	北カマド・中央	平安時代	
11号竪穴住居跡	E5-F5	N-54°-E	3.8×3.6	方形	29住-14-17住-16住-10住-11住	東カマド・南寄り	古墳時代後期	
12号竪穴住居跡	E3-E4	-	-	方形	8住-12住-7住	-	奈良時代	
13号竪穴住居跡	C4-C5-D4-D5	-	-	7.3×5.5	方形	-	奈良時代後期	
14号竪穴住居跡	E5-G5-F6-G6	N-51°-E	-×	4.2	方形	29住-14-17住-16住-10住-11住	東カマド・中央	古墳時代後期
15号竪穴住居跡	F3-F4	N-67°-E	4.2×3.1	方形	東カマド・北寄り	古墳時代後期		
16号竪穴住居跡	E5-F5-E6-F6	N-25°-E	5.6×5.5	方形	29住-14-17住-16住-10住-11住	北カマド・中央	古墳時代後期	
17号竪穴住居跡	D6-E6	N-165°-E	4.1×4.1	方形	29住-14-17住-16住-10住-11住	南カマド・中央	古墳時代後期	
18号竪穴住居跡	D7-D8	N-22°-E	3.8×4.3	方形	-	-	奈良時代後期	
19号竪穴住居跡	C6	N-85°-W	2.4×2.4	方形	26住-19-20住-23住	南西カマド・南西隅	古墳時代後期	
20号竪穴住居跡	B6-B7	N-70°-E	-×	3.5	方形	26住-19-20住-23住	東カマド・北寄り	古墳時代後期
21号竪穴住居跡	B9	-	-	-×	方形	30住と重複	-	時期不明
22号竪穴住居跡	E7-F8-G7-G8	-	3.0×3.1	方形	24住-22住	-	古墳時代後期	
23号竪穴住居跡	B6-C6	N-26°-W	-×	4.9	方形	26住-19-20住-23住	北カマド・中央	古墳時代後期
24号竪穴住居跡	G7	-	-	3.5	方形	24住-22住	-	古墳時代後期以前
25号竪穴住居跡	E9-F9	-	-	5.3×-	方形	-	古墳時代後期	土葺屋根か?
26号竪穴住居跡	B6-B7-C6-C7	N-77°-E	5.0×4.1	方形	26住-19-20住-23住	-	奈良時代後期	
27号竪穴住居跡	E8-F8	N-56°-W	4.7×3.7	方形	27住-3掘-2掘	-	奈良時代後期	
28号竪穴住居跡	C8	N-32°-W	3.7×4.4	方形	28住-1掘	-	奈良時代後期	
29号竪穴住居跡	F6-F7	-	-	3.2×-	方形	29住-14-17住-16住-10住-11住	-	奈良時代後期
30号竪穴住居跡	B9	-	-	-×	方形	21住と重複	-	時期不明



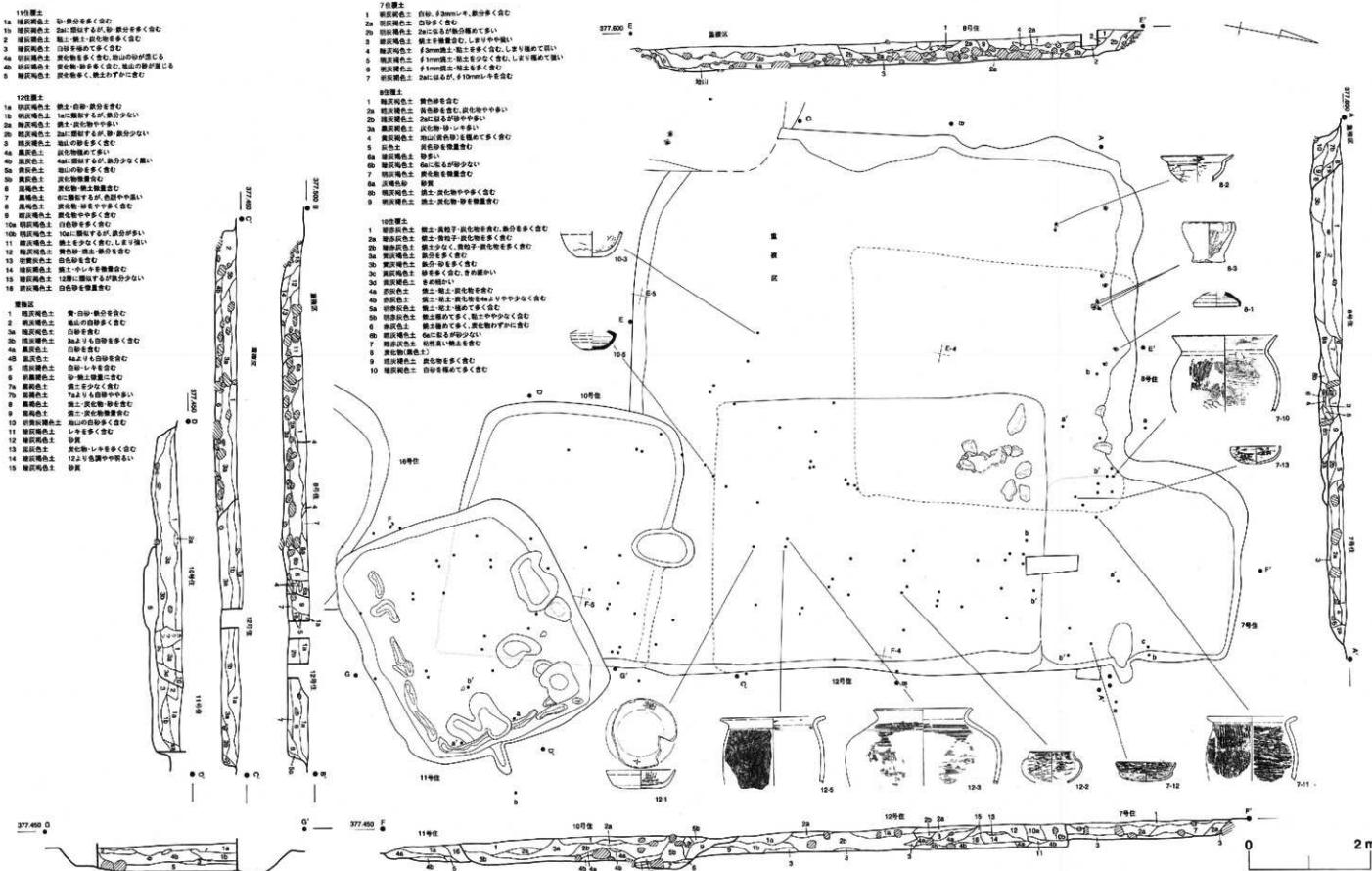
第4図 1号竪穴住居跡平・断面図



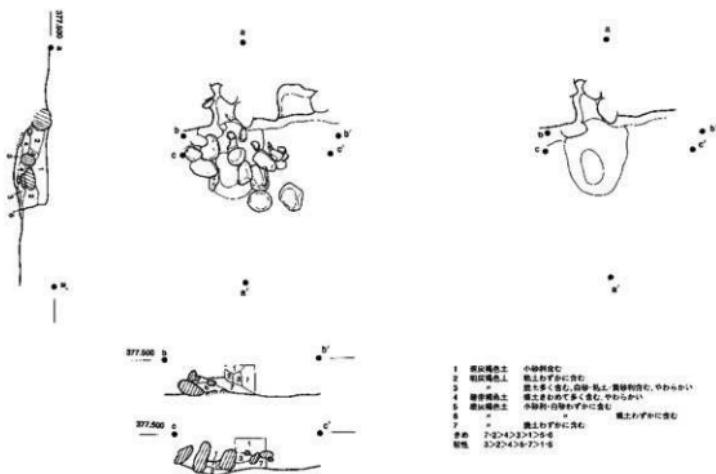
第5圖 5号竪穴住居跡平・断面図



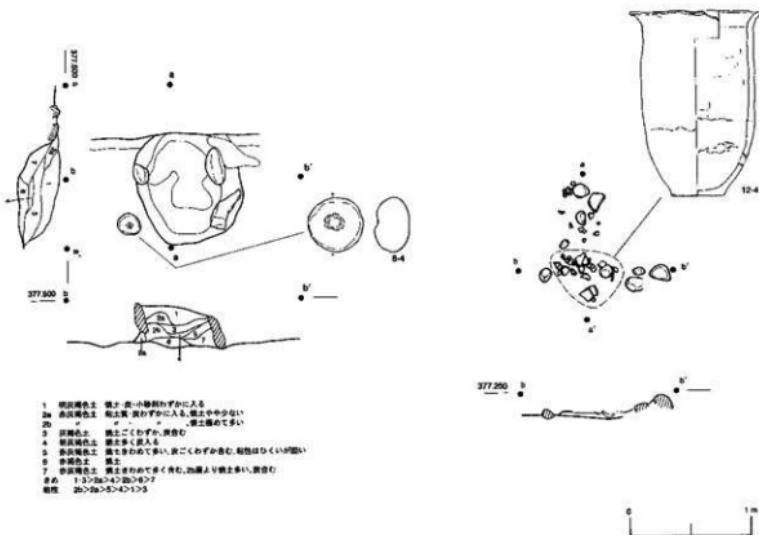
第6図 6・9号竪穴住居跡平・断面図(1/60)



第7図 7・8・10・11・12号竪穴住居跡、住居重複区平・断面図(1/60)

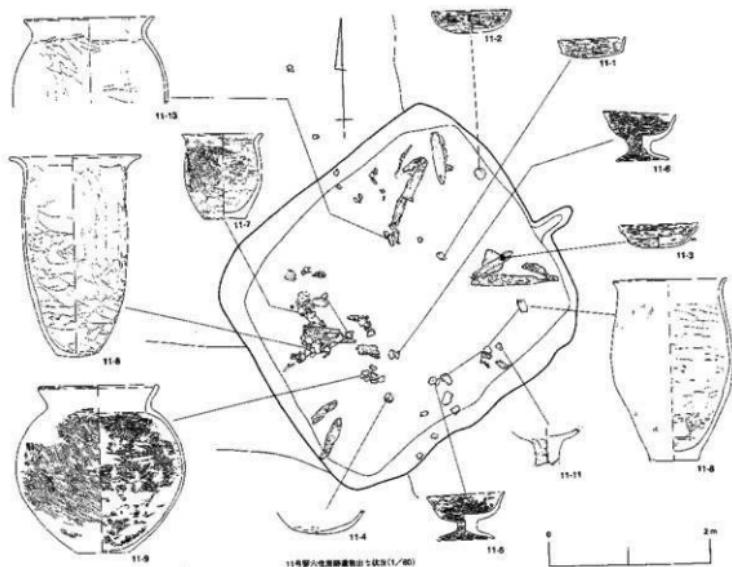
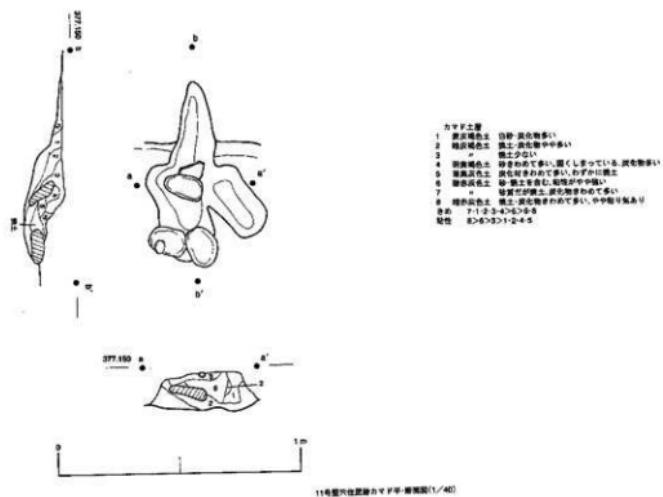


第8図 7号住居跡カマド平・断面図(1/40)

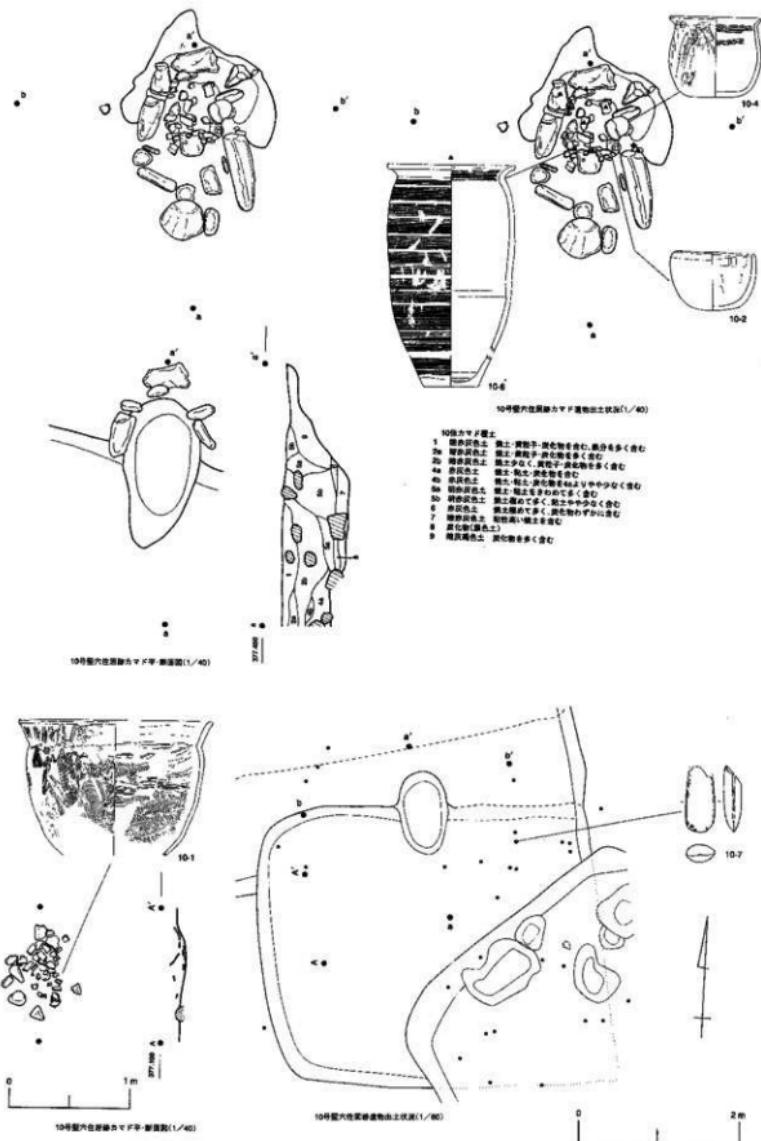


第9図 8号住居跡カマド平・断面図(1/40)

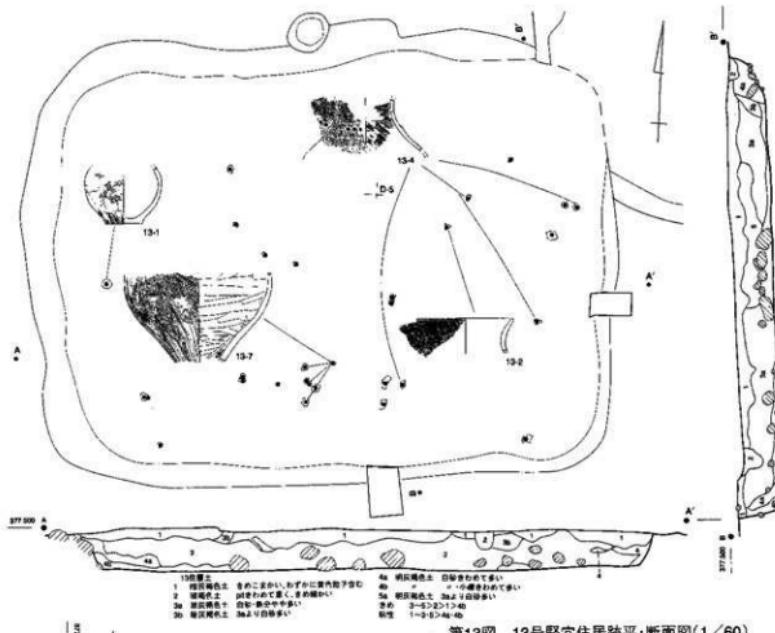
第10図 12号住居跡土器集中遺物出土状況(1/40)



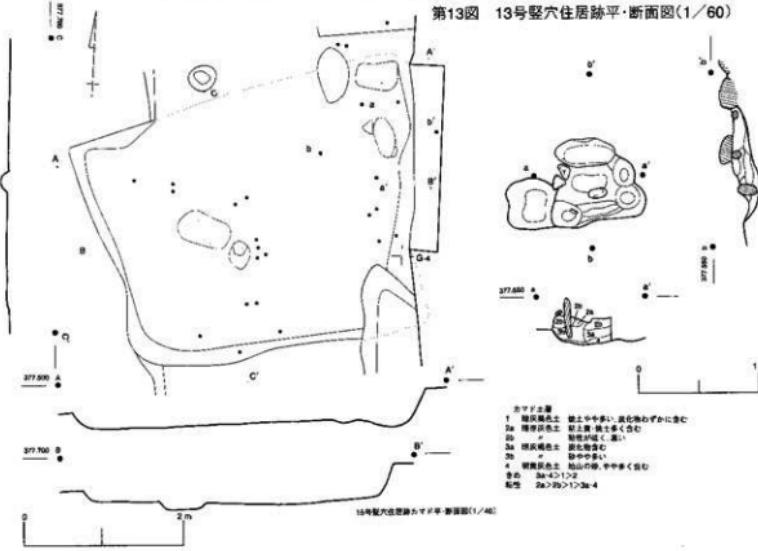
第11図 11号竖穴住居跡平面図



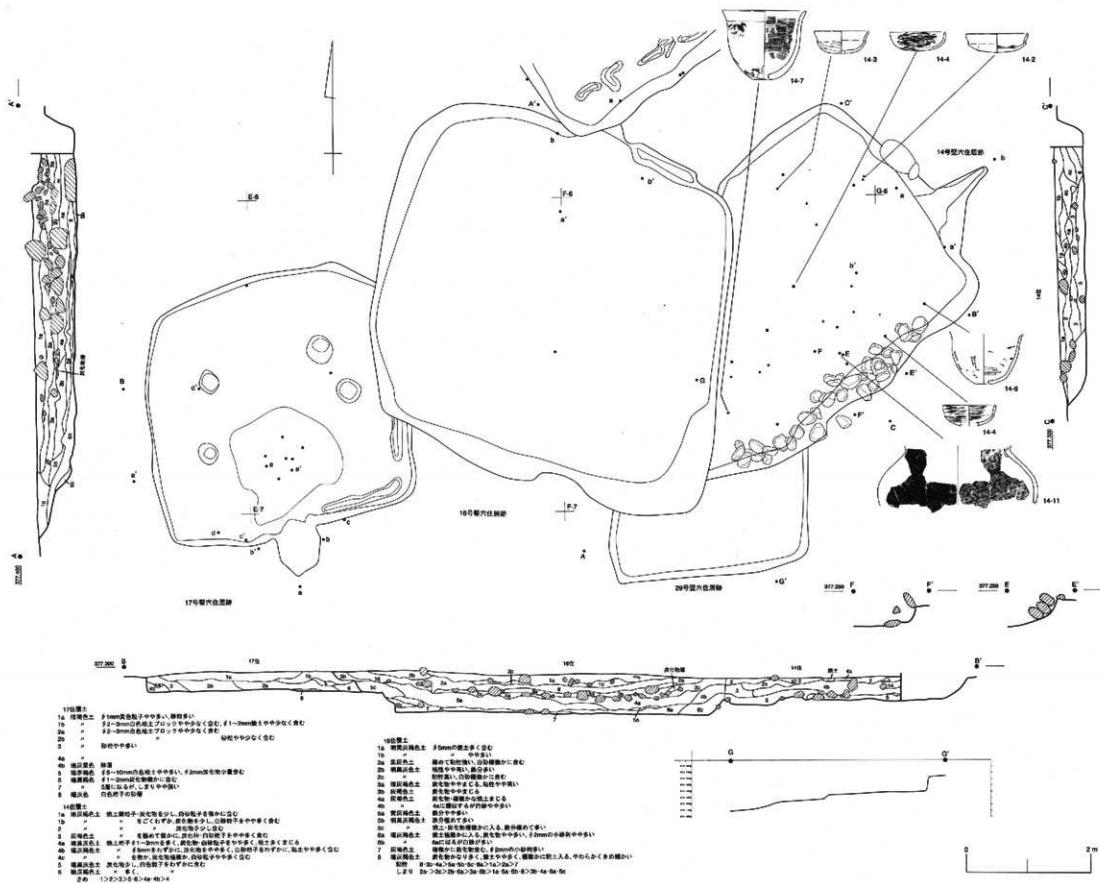
第12図 10号竪穴住居跡平・断面図



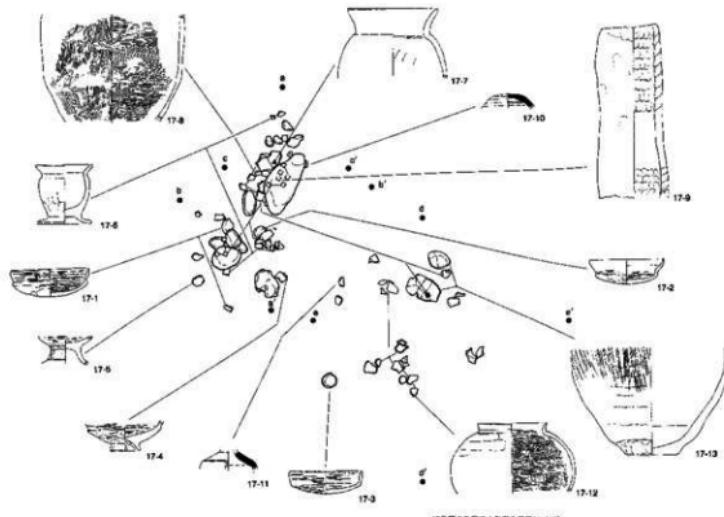
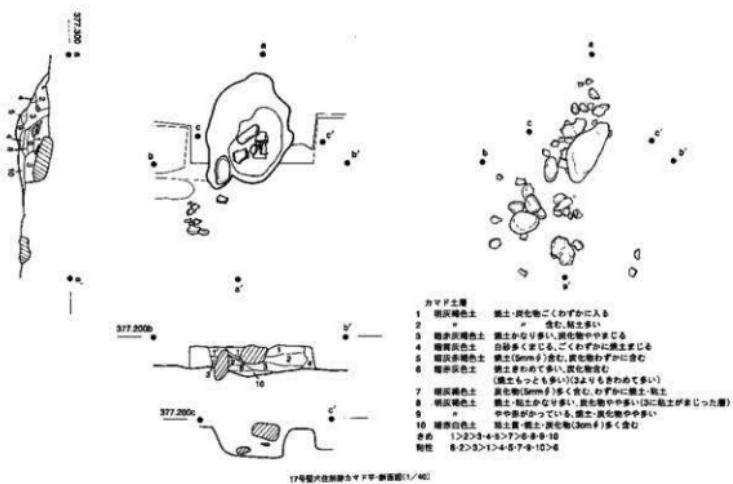
第13図 13号竪穴住居跡平・断面図(1/60)



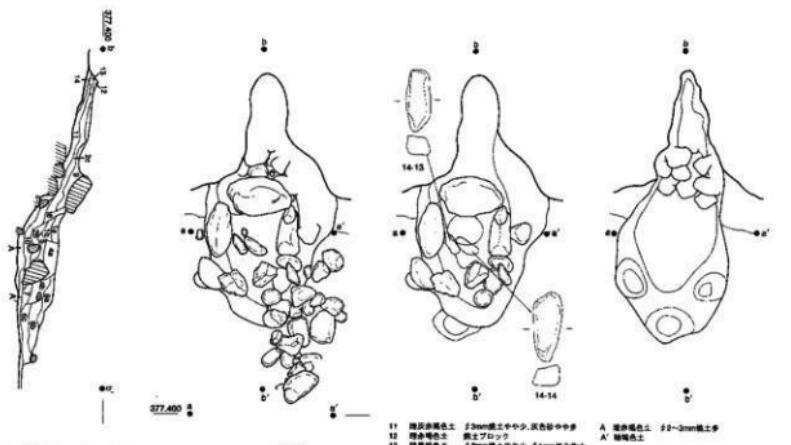
第14図 15号竪穴住居跡平・断面図(1/60)



第15図 14・16・17・29号竪穴住居跡平・断面図(1/60)

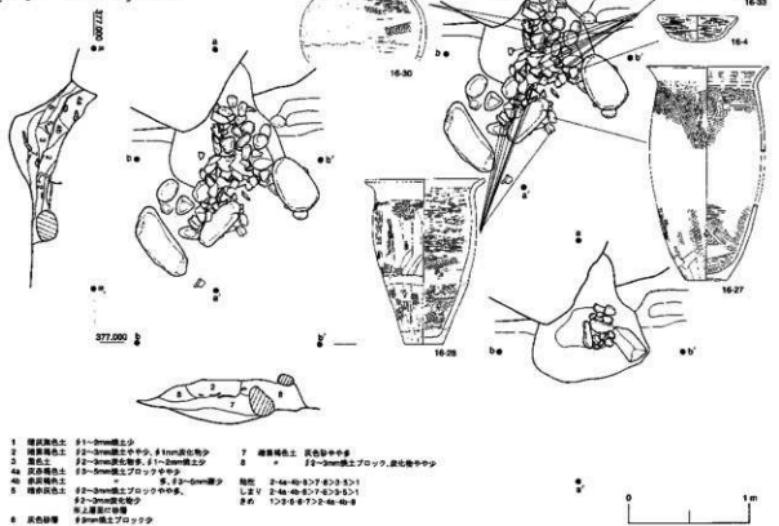


第16図 17号竖穴住居跡平面図

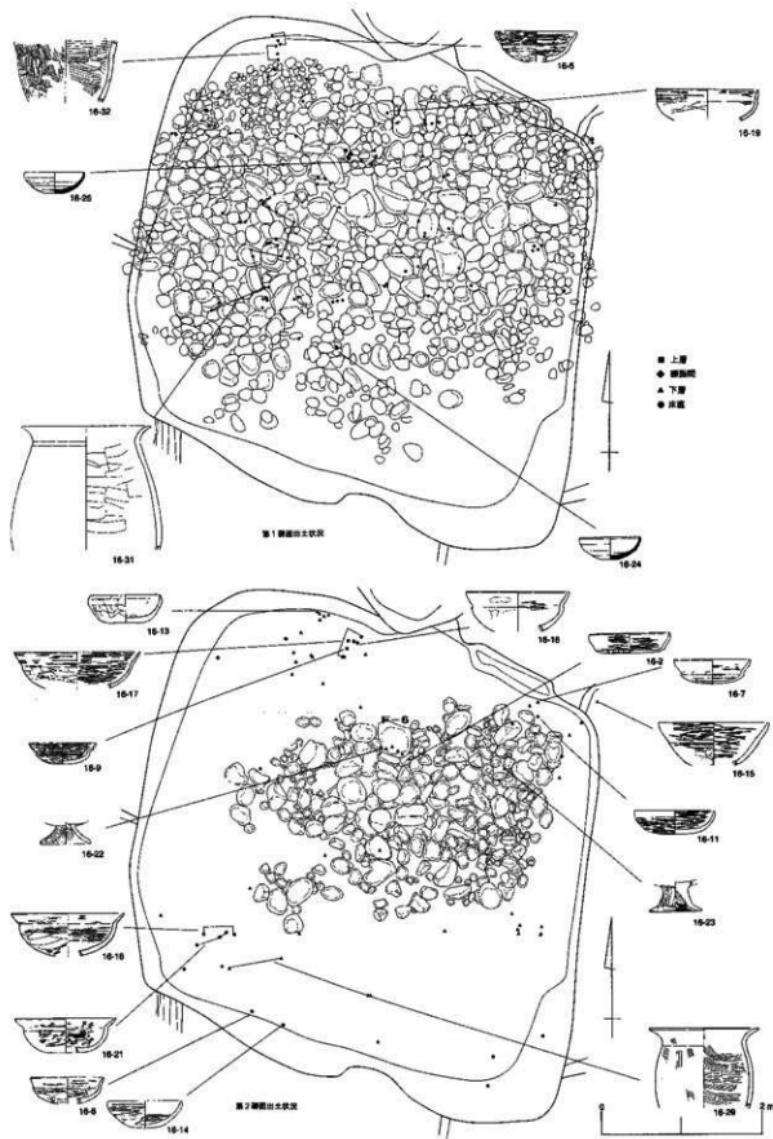


第17図 14号堅穴住居跡カマド平・断面図(1/40)

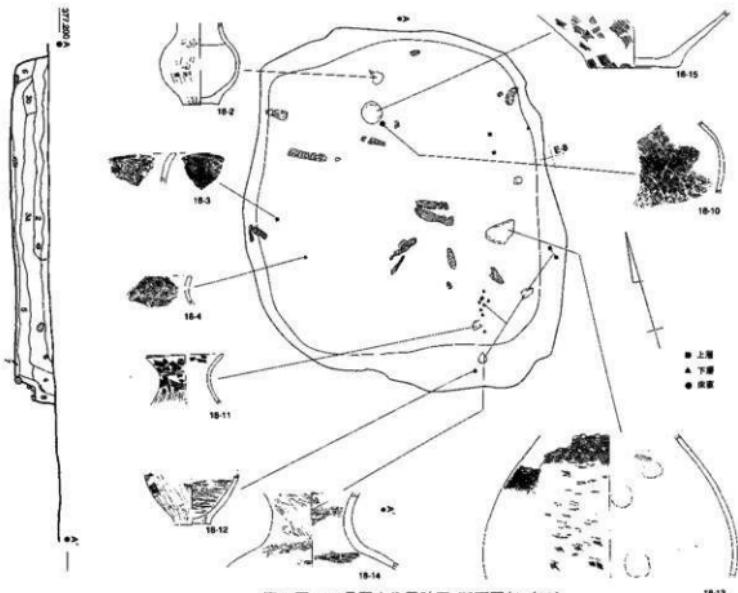
1a	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少	220m	220m	A. 堅赤褐色土
1b	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1-3mm塊状や少			A'. 堅褐色土
2a	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 白色角鈍土より多く 有機物ブロックや少			
2b	"	褐色土と白色土の接ぎ合いで見ます			
3a	褐色角鈍土	#1mm以上塊状や少 #1mm以上塊状や少			
3b	褐色角鈍土	#1mm以上塊状や少 #1mm以上塊状や少			
4a	褐色角鈍土	#1mm以上塊状や少 #1mm以上塊状や少			
4b	褐色角鈍土	#1mm以上塊状や少 #1mm以上塊状や少			
5	褐色角鈍土	褐色角鈍土を多く含む 白色角鈍土の層と、1mm未だら #1-3mm塊状ブロックや少			
6a	褐色角鈍土	#1-3mm塊状ブロックや少 #1mm以上塊状や少			
6b	褐色角鈍土	#1mm以上塊状や少 #1mm以上塊状や少			
7	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
8	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
9	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
10	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
11	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
12	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
13	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 褐色の可塑性大 #1mm以上塊状や少			
14	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
15	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			
16	褐色角鈍土	#1-3mm塊状や少 #1mm以上塊状や少			



第18図 16号堅穴住居跡カマド平・断面図(1/40)



第19図 16号竪穴住居跡出土状況(1/60)



第20図 18号堅穴住居跡平・断面図(1/60)

18住居土

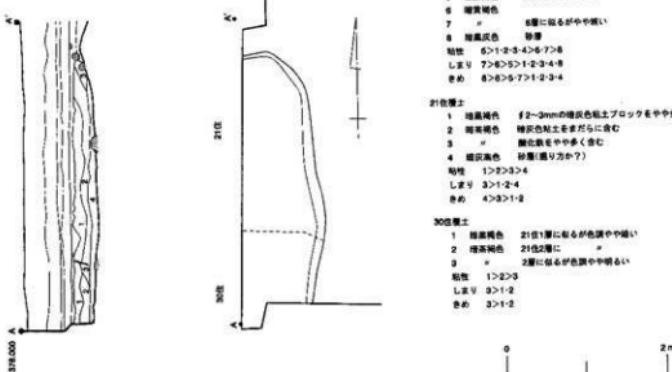
- 1 坚黑褐色土 手3-5mm炭化物を散在に含む
 - 2 坚黑灰褐色土 1よりやや弱る
 - 3a “ ” 1-2-3mmの炭化物少しある
 - 3b “ ” 3よりやや弱る
 - 4 “ ” 4mmの炭化物を散在に含む
 - 5 坚黑褐色 炭化物を多く含む
 - 6 坚黑褐色
 - 7 “ ” 8mmに及ぶるがやや弱い
 - 8 坚灰褐色 脆性
- 胎生: 6-1-2-3-4-5-7>8
しより 7-2-6-5-2-1-3-4-8
きめ 8-6-5-7-3-2-3-4

21住居土

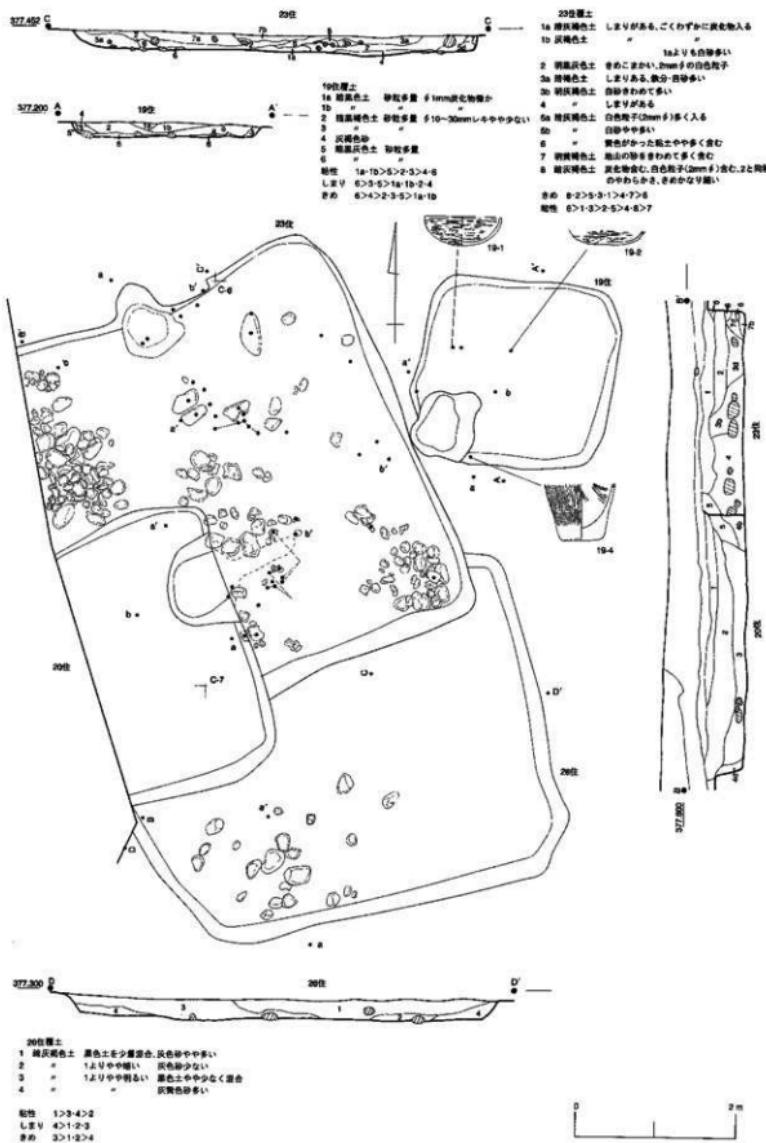
- 1 坚黑褐色 1-2-3mmの焼灰色粘土ブロックをやや多く含む
 - 2 坚黑褐色 烧灰色粘土をまだらに含む
 - 3 “ ” 粘土をやや多く含む
 - 4 坚灰褐色 分層(裏りかか?)
- 胎生: 1-2-3-4
しより 3-1-2-4
きめ 4-3-1-2

30住居土

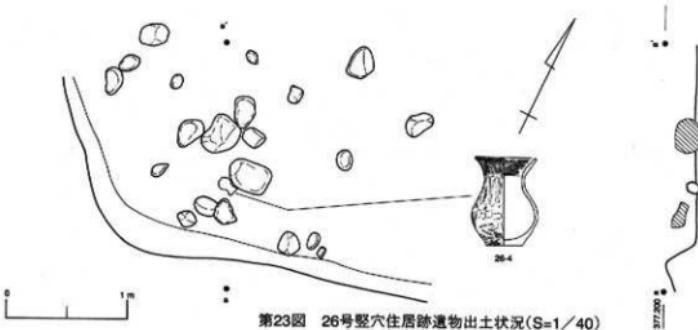
- 1 坚黑褐色 21住1層になるが色調やや暗い
 - 2 坚黑褐色 21住2層に “ ”
 - 3 “ ” 2層になるが色調やや明るい
- 胎生: 1>2>3
しより 3>1-2
きめ 3>1-2



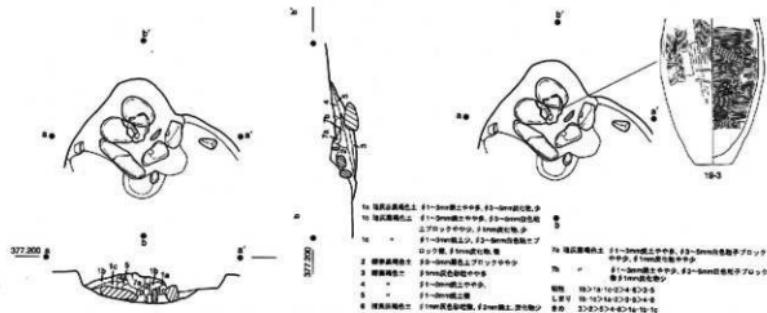
第21図 21・30号堅穴住居跡平・断面図(1/60)



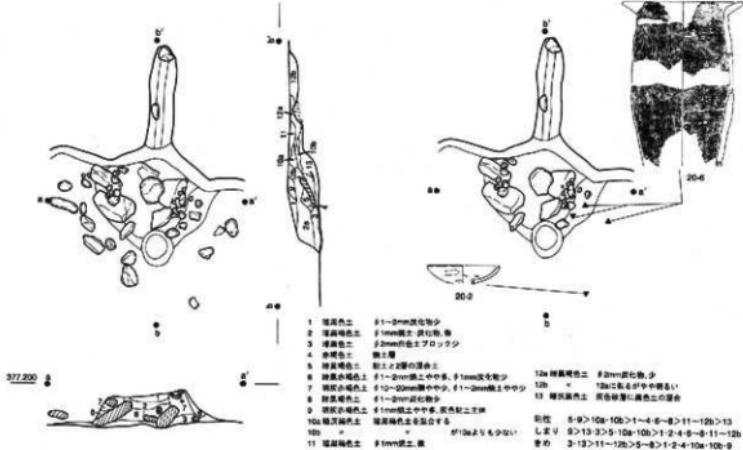
第22図 19・20・23・26号竪穴住居跡平・断面図(1/60)



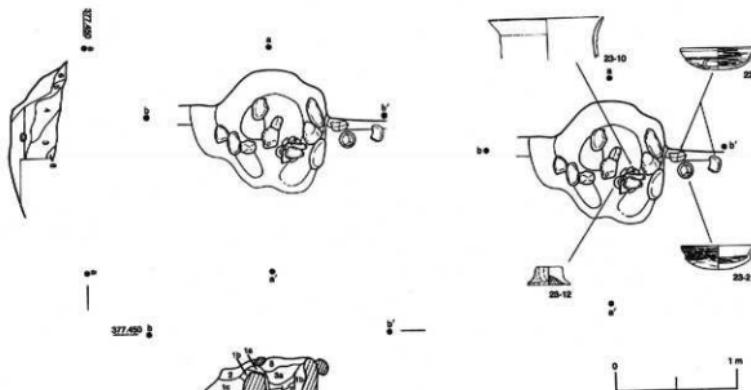
第23図 26号竪穴住居跡遺物出土状況(S=1/40)



第24図 19号竪穴住居跡カマド平・断面図(S=1/40)



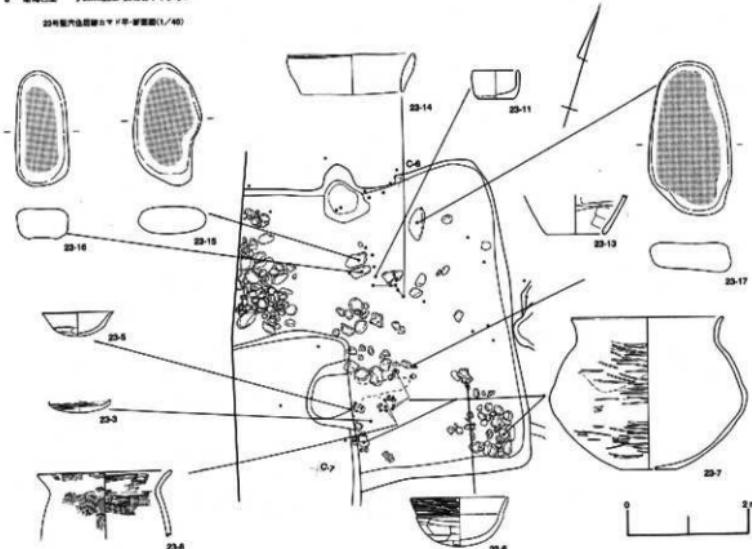
第25図 20号竪穴住居跡カマド平・断面図(S=1/40)



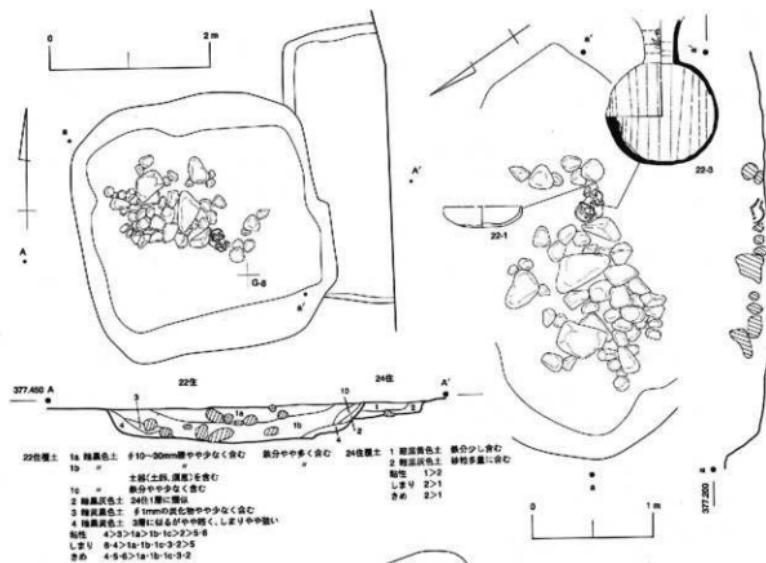
23号竖穴住居跡地図(1/40)

- カマド土層
 1a 緑褐色土 $\frac{1}{2}$ 1mm灰土。1mm白色粘土粒子多く含む
 1b " $\frac{1}{2}$ 10mm灰土を含むブロック状含む
 1c 緑褐色土 $\frac{1}{2}$ 1mm灰土を含む
 2 " $\frac{1}{2}$ 1mm灰土や砂少ない。1-2mm灰土粒子少ない
 3a " $\frac{1}{2}$ 1-10mm灰化土や砂多い。1mm灰土少ない
 3b " $\frac{1}{2}$ 3aよりや砂多い
 3c " $\frac{1}{2}$ 1-10mm灰土多い。2-3mm灰土少ない
 4 " $\frac{1}{2}$ 1-10mm灰化土や砂多い
 5 " $\frac{1}{2}$ 1mm灰土少ない
 6 " $\frac{1}{2}$ 1mm灰土少ない
 7 墓少軽色土 $\frac{1}{2}$ 2-10mm灰土や砂多い。1mm灰化土や砂
 8 灰褐色土 $\frac{1}{2}$ 2mm灰土、灰化土や砂ない

23号竖穴住居跡カマド付近図(1/40)



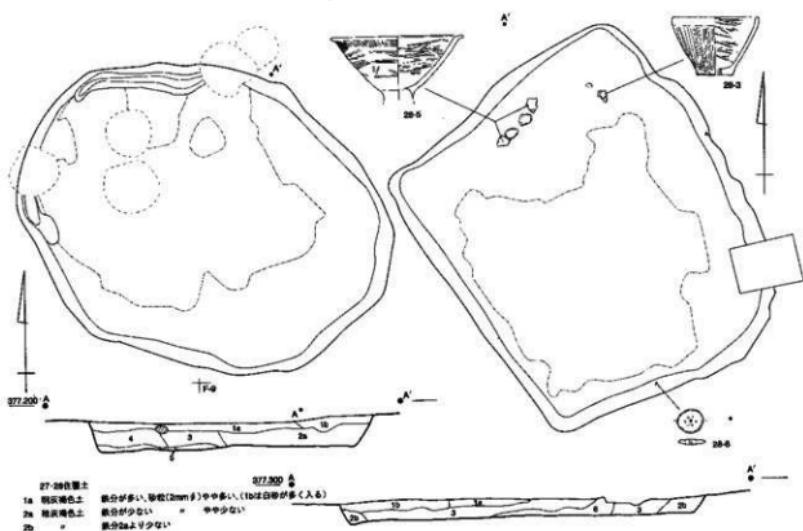
第26図 23号竖穴住居跡平面図(1/80)



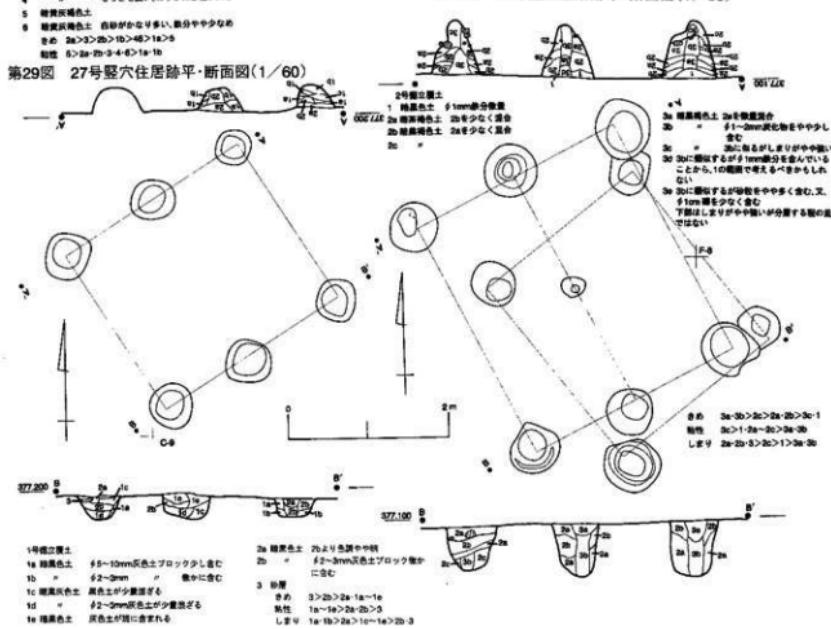
第27図 22・24号竪穴住居跡平・断面図(1/60)



第28図 25号竪穴住居跡平・断面図(1/60)

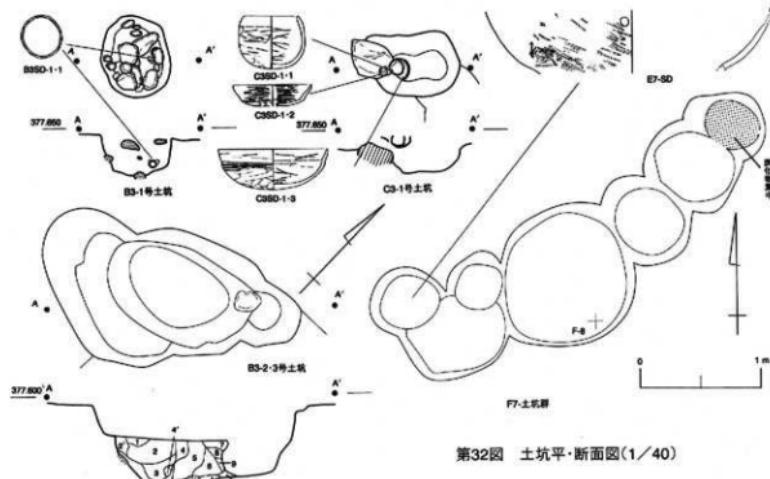


第30図 28号整穴住居跡平・断面図(1/60)



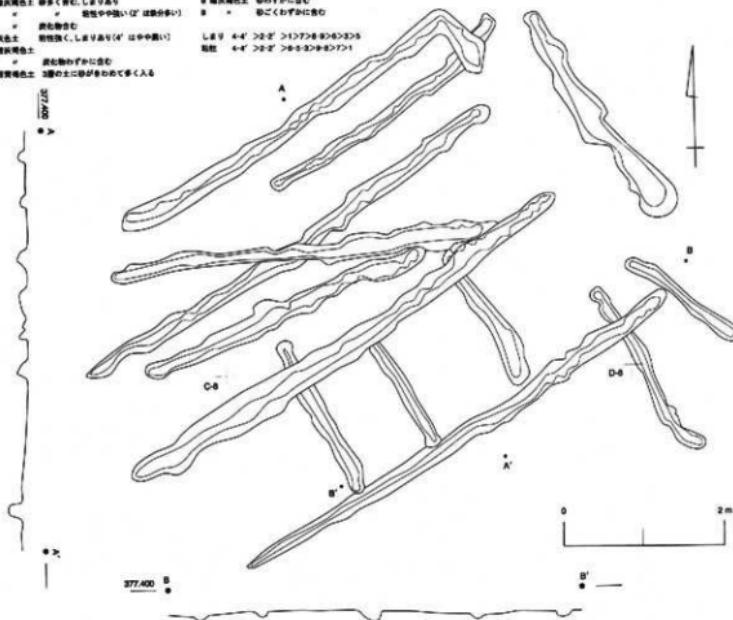
第31a図 1号掘立柱建物跡平・断面図(1/60)

第31b図 2・3号掘立柱建物跡平・断面図(1/60)

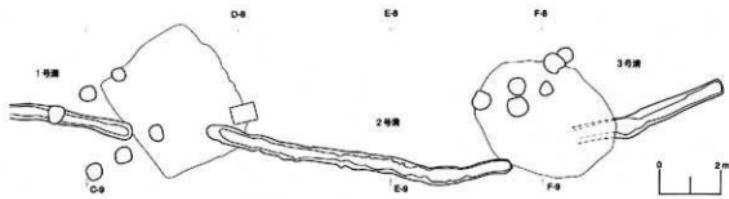


第32図 土坑平・断面図(1/40)

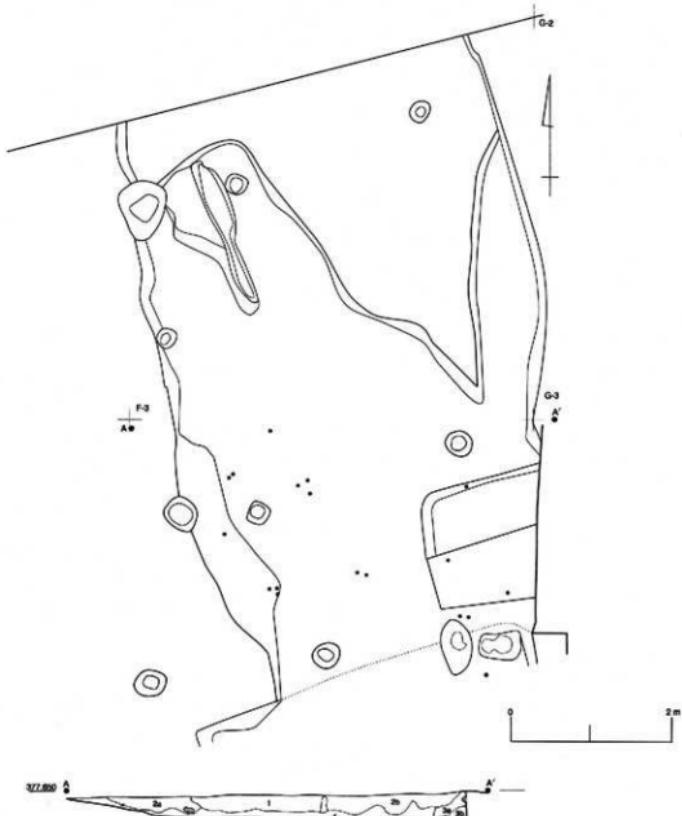
- 1 線状褐色土 新多く含む、しまりあり
- 2 × 茎や中茎い(?)は数多い
- 3 × 茎を含む
- 4 黄色土 布地強く、しまりあり(?)は中茎い
- 5 線状褐色土
- 6 × 茎を含むかに含む
- 7 棕褐色土 3個の土に伸びをわめて多く入る
- 8 線状褐色土 みわざかに含む
- 9 × かごくわずかに含む



第33図 穫状遺構平・断面図(1/60)

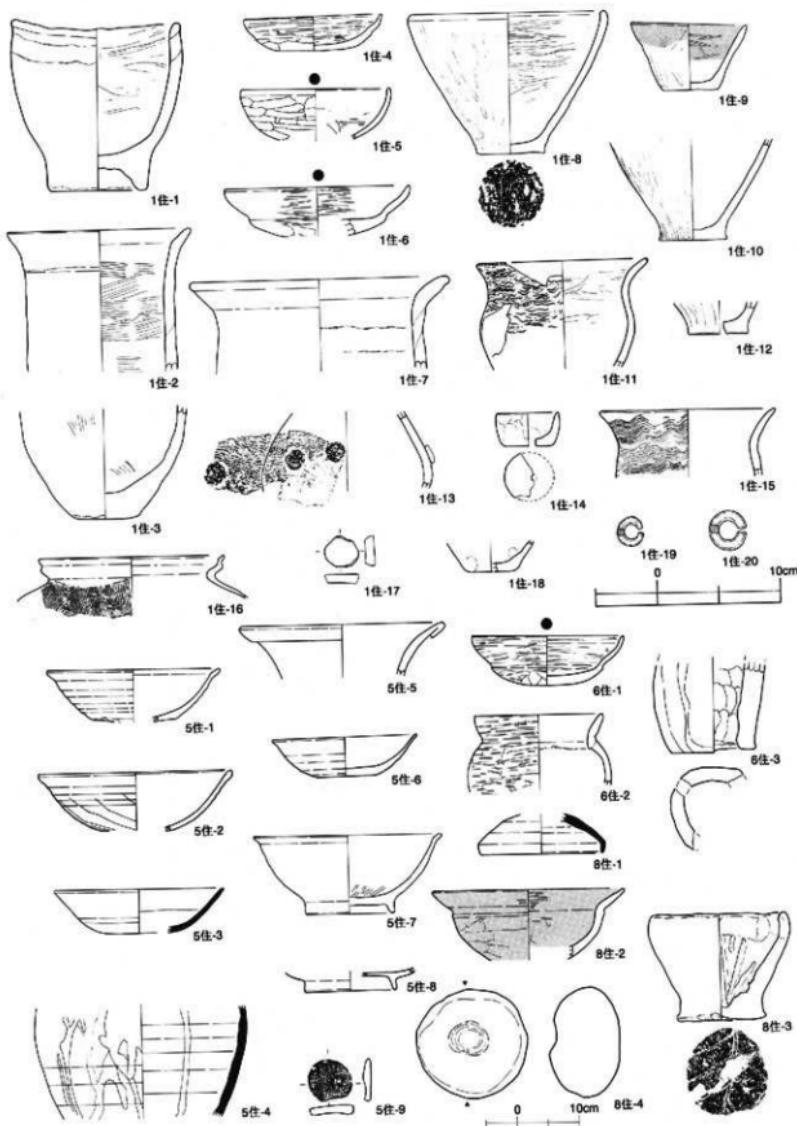


第34図 1・2・3号溝平面図(1/160)

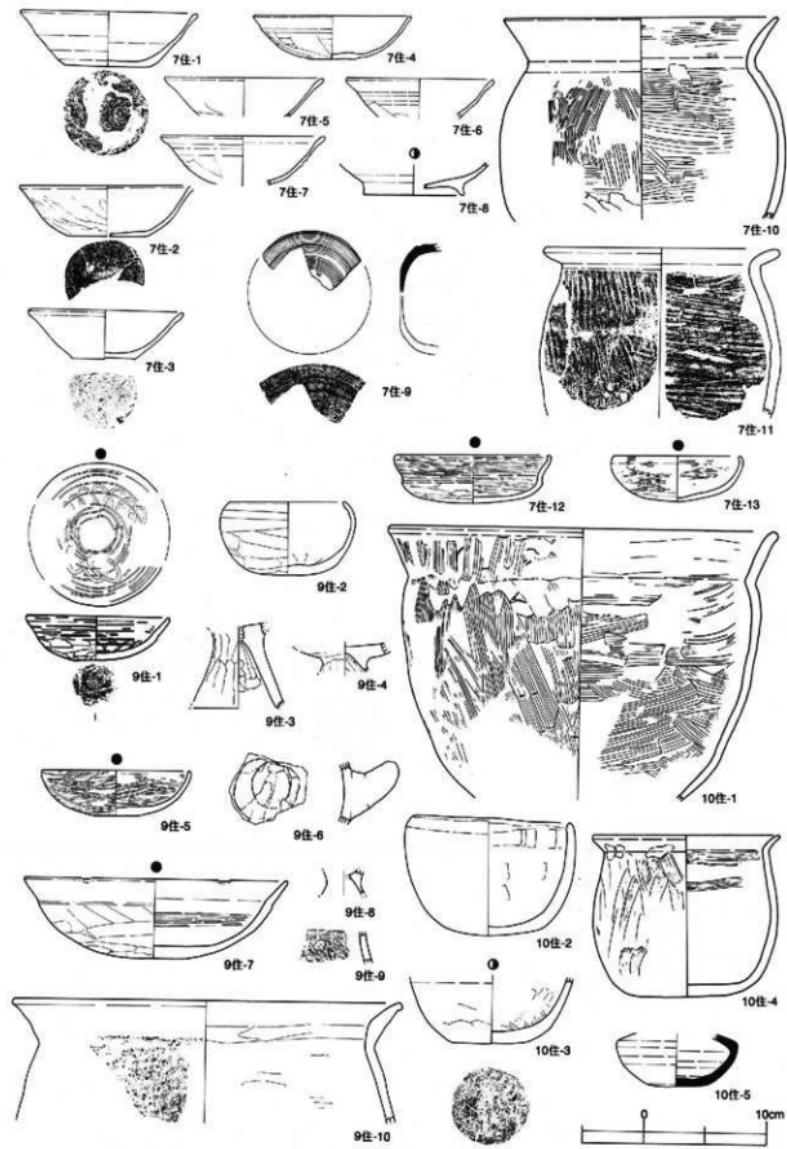


- | | | |
|---------|-------------------|------------|
| 1. 黄褐色土 | 粘土わずかに含む、少含む | 2. 2>4>3>1 |
| 2a. " | " 粘分なし、黄化物わずかに含む | 粘性 2>1>4 |
| 2b. " | 2a+鉄分 | |
| 2c. " | 鐵分多い | |
| 2d. " | 鐵多い | |
| 4. 黑褐色土 | 無分わずかに含む、白色粒子多く含む | |

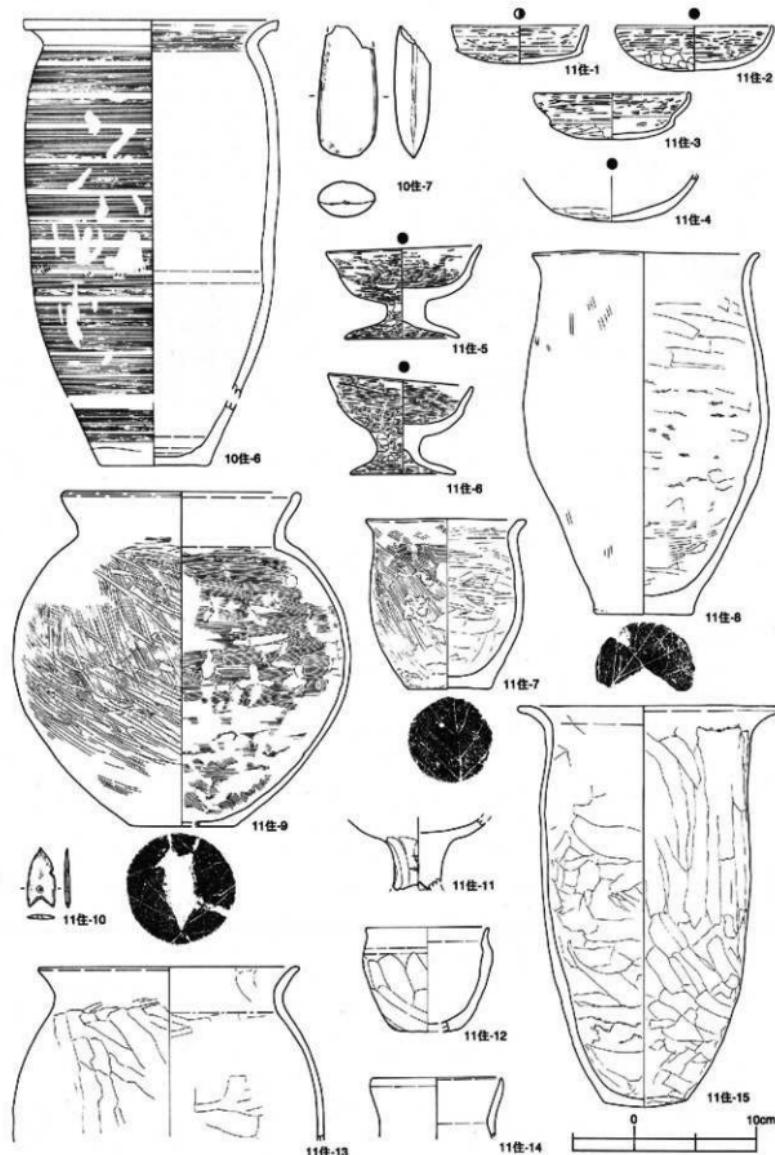
第35図 溝状造構平・断面図(1/60)



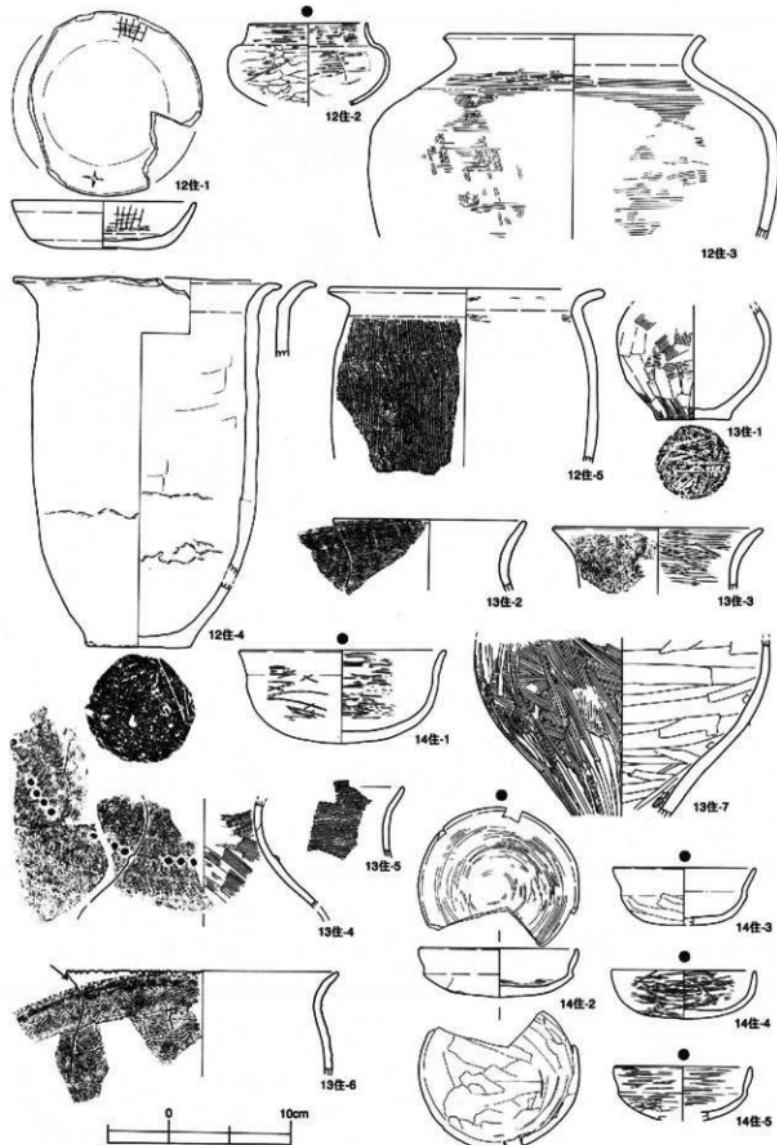
第36図 1-5·6·8号竖穴住居跡出土遺物



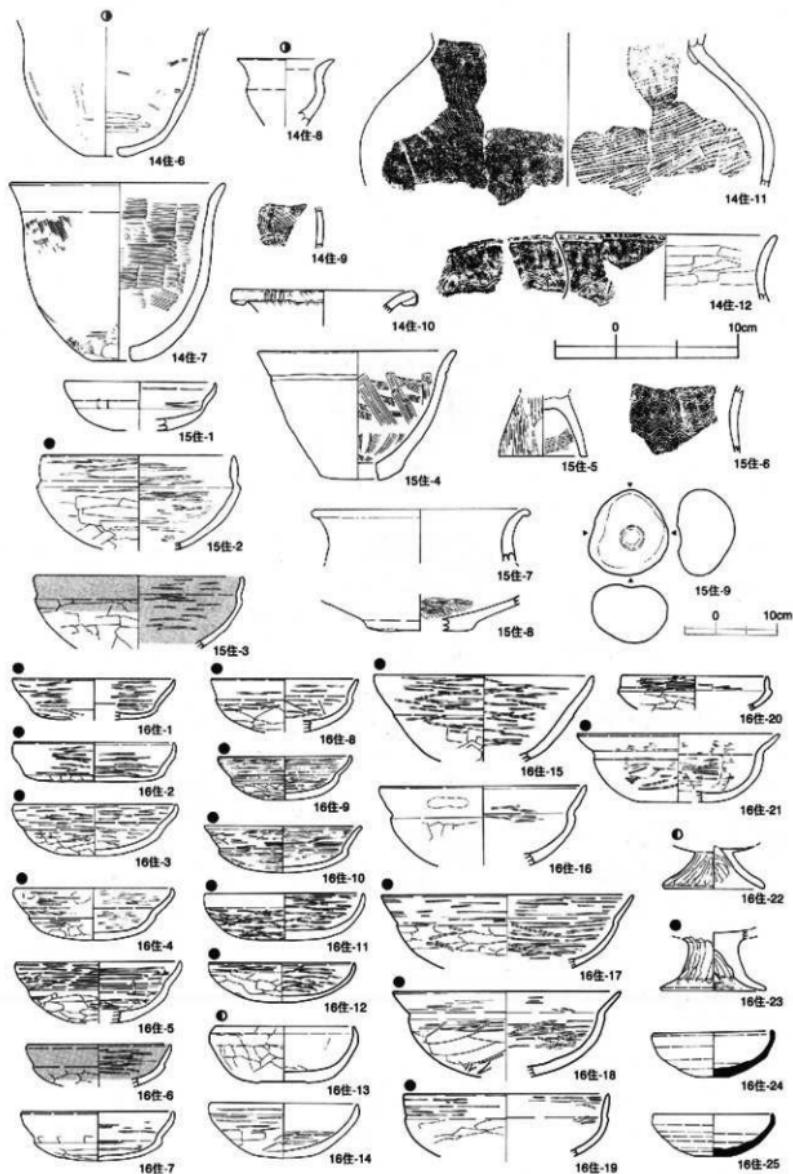
第37図 7・9・10号堅穴住居跡出土遺物



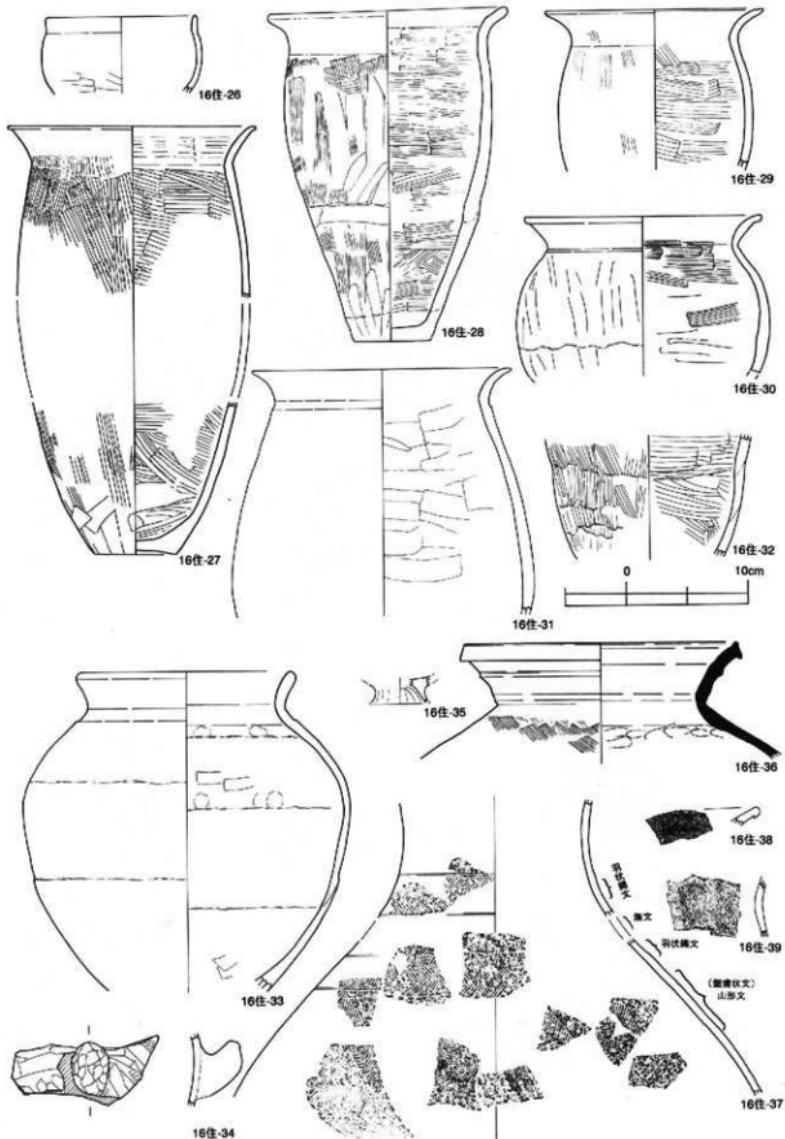
第38图 10·11号竖穴住居跡出土遺物



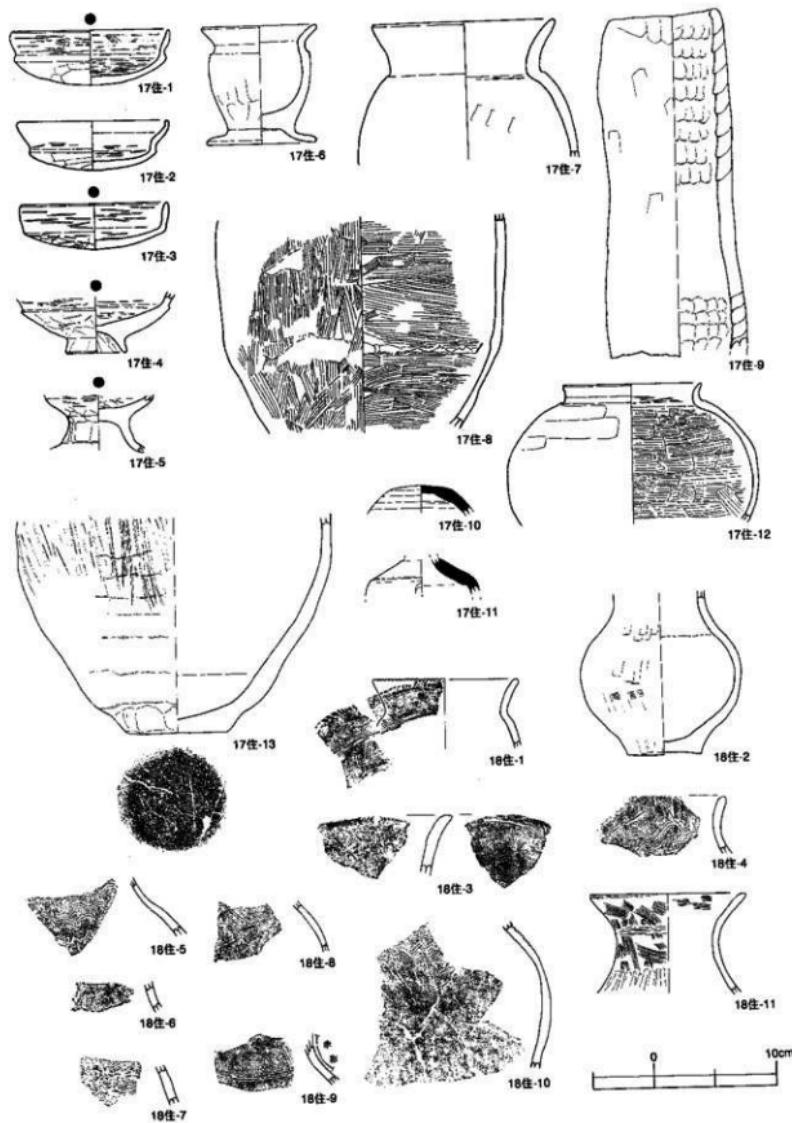
第39図 12・13・14号竪穴住居跡出土遺物



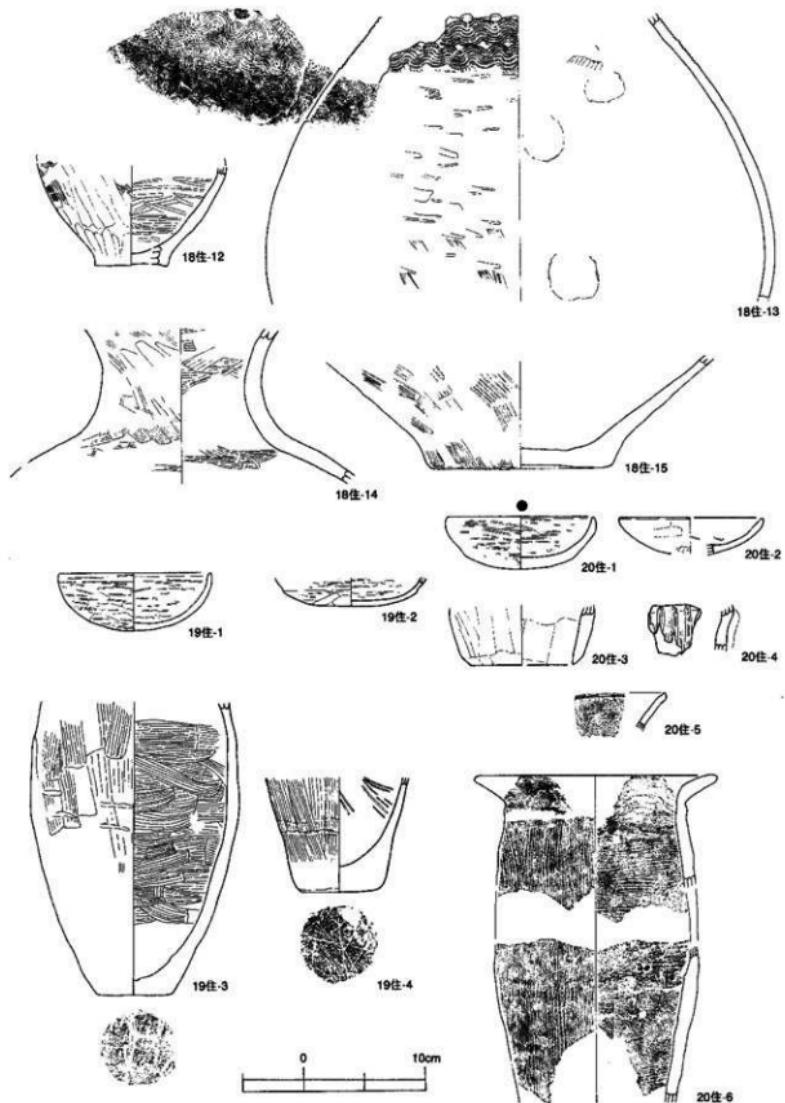
第40図 14-15-16号竖穴住居跡出土遺物



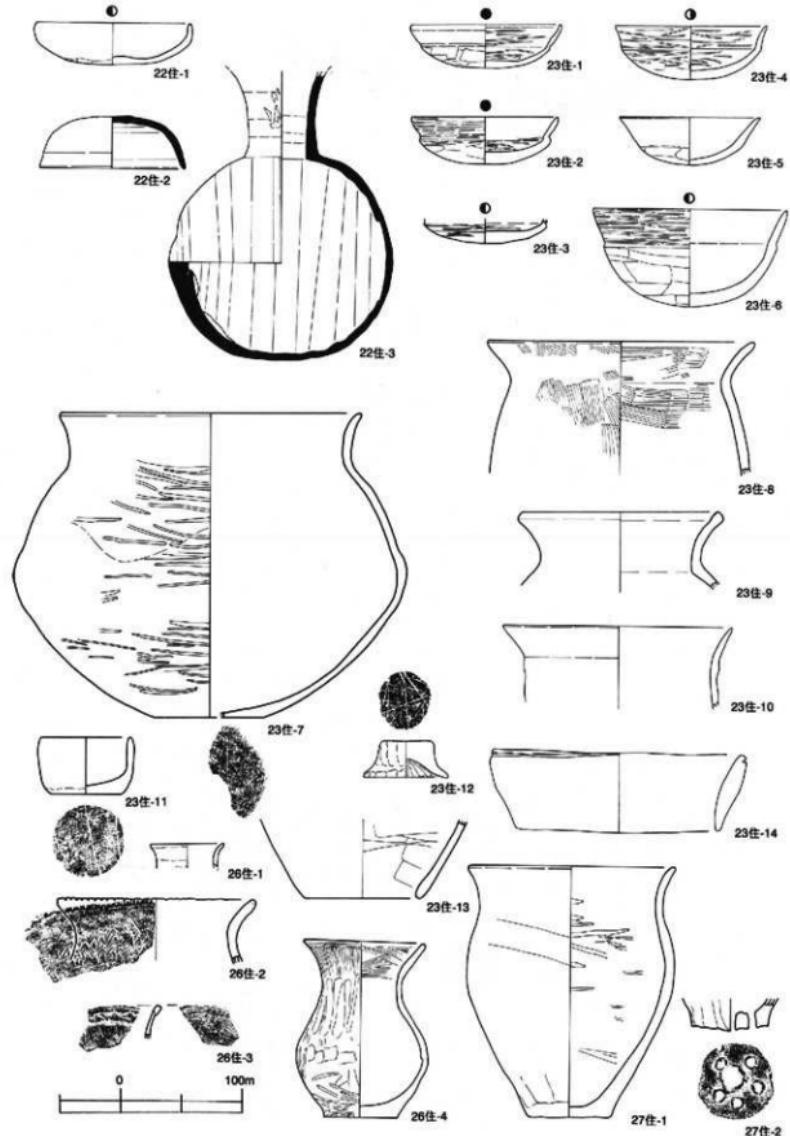
第41図 16号竖穴住居跡出土遺物



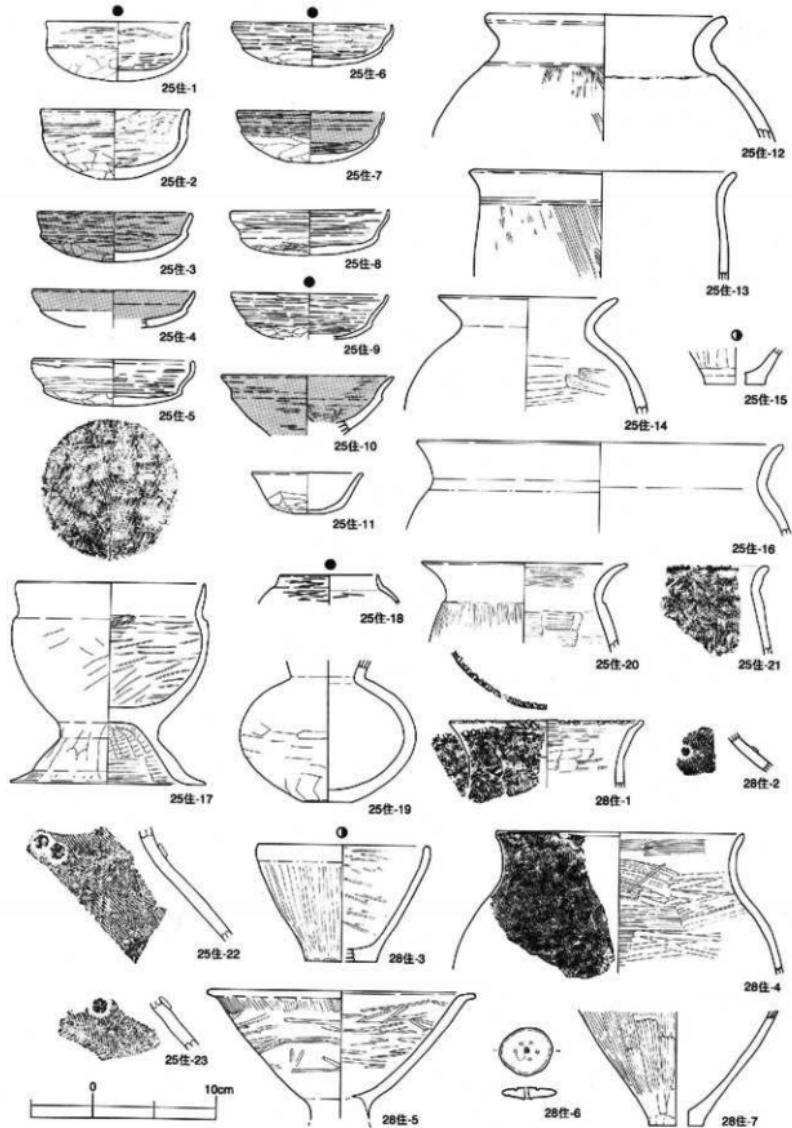
第42図 17・18号堅穴住居跡出土遺物



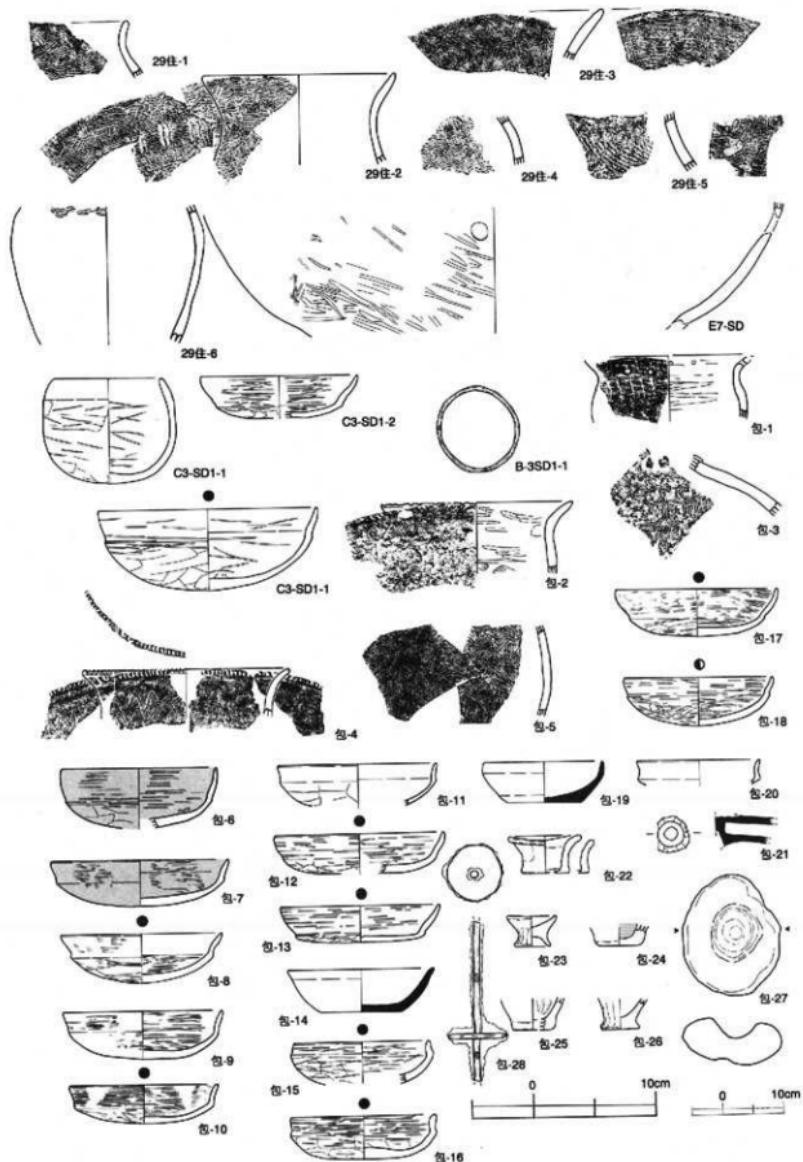
第43図 18・19・20号竪穴住居跡出土遺物



第44図 22・23・26・27号竖穴住居跡出土遺物



第45図 25・28号竖穴住居跡出土遺物



第46図 29号堅穴住居跡・土坑・包含層出土遺物

出土土器・土製品観察表

出土位置	層位	器種	時期	法量(cm)	色調(内・外)	胎土	調整	残存率
1住-1	ガド内	台付甕	古墳	13.5 13 8	灰褐色 橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-横沟 外-輪穂痕	1/2
1住-2	ガド内	甕	古墳	14.8 -	にぶい赤褐色 橙色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-リーフ 外-縦溝リーフ	破片
1住-3	ガド内	長胴甕	古墳	- - 5	暗赤褐色 赤褐色	粗い赤色、白、黒色粒子	内-リーフ? 外-横沟?	体部~底部 破片
1住-4	フク	甕	古墳	11.2 2.8 5	褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-横溝? 外-横溝? 体下部ハナギリ	1/6
1住-5	フク	甕	古墳	12 -	灰褐色 褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ぼけ少 外-ハナギリ 黒色処理	1/6
1住-6	フク	甕	古墳	15.1 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-えがき 外-ぼけ?	1/5
1住-7	フク	甕	古墳	20.8 -	灰褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	輪穂痕 内-横溝 外-リーフリーフ	口縁~体部 破片
1住-8	フク	鉢	弥生	15.8 11.6 5.5	赤色 赤色	白、赤色粒子と雲母を含む	内外赤彩 内-ぼけ? 外-丁寧な擦り目 此部木漆痕?	1/4
1住-9	床直	小鉢	弥生	9.4 5.5 4.3	赤色~明褐色 口縁赤色部にぶい褐色	白、赤色粒子と雲母を含む	内外赤彩 内-ボケ 外-口縁部リム 体部ハナギリ	ほぼ完形
1住-10	フク	壺	弥生	- - -	黄褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子と雲母を含む	外-ぼけ状継げ 底部ハナギリ	体下部~ 底部破片
1住-11	フク	甕	弥生	14 -	にぶい褐色 褐色	白色粒子と雲母を含む	内-リーフ 外-山腹部リム 口縁~体部波状文	口縁部破片
1住-12	フク	瓶	弥生	- - -	にぶい褐色 灰褐色	白、黒色粒子を含む	外-ウカ	底部破片
1住-13	フク	壺	弥生	- -	橙色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-横沟? 外-体部波状文 ガラ状貼付文	破片
1住-14	フク	ミコト上器(高)	■	4.9 2.7 3.8	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子と雲母を含む	底部中央に單孔 内-横溝 外-横溝(上部に指痕底残)	1/4
1住-15	床直	甕	弥生	14.2 -	橙色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ぼけ状横溝 外-横溝状文	口縁部破片
1住-16	床直	甕	弥生~古墳	15.1 - -	橙色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	S字伏口縁 外-カメ	口縁部破片
1住-17	フク	土器片 製円盤	■	2.7 0.7	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色		側縁部全崩滅	完形
1住-18	フク	ミコト土器	古墳	- 3.5	橙色 褐色	白、黒色粒子を含む	内-横溝 外-横溝(指痕底部付)	体部~底部 破片
5住-1	ガド周	甕	平安	14.4.5	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	跡指印? 外-民窓ハナギリ	11縁部3/4
5住-2	フク	甕	平安	16 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-リーフ 外-山腹部リム付 体部ハナギリ -ハナギリ	口縁部1/4
5住-3	フク	須恵甕	平安	13.6 3.6 5	灰白色 灰白色	白、黒色粒子を含む	跡條形 内-灰釉のがたか? 外-体下部ハナギリ	1/5
5住-4	フク	須恵甕	平安	- - -	灰白色 灰白色	白、黒色粒子を含む	跡條形 内-灰釉 外-灰釉 腹部回転ハナギリ	胴部破片

5住-5	フク	壺	弥生 平安	16.3 -	にぶい褐色 オリーブ黒色	白、黒色粒子、雲母を含む	内-横げ 外-1唇部横げ 副唇横げ一丁寧な 縫合げ	口縁部破片
5住-6	加ト 内	壺	平安	12.3 3.2 4.8	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	吻げ	ほぼ完形
5住-7	加ト 内	瓶	平安	15.4 6.5 7.2	黒色 黒色	白、黒色粒子を含む	内-黒色付着物	ほぼ完形
5住-8	加ト 内	瓶	平安	- - 7.6	灰黄褐色 灰黄褐色	白色粒子を含む	吻げ	底部破片
5住-9	フク	上器片 製円盤	弥生	5.5mm 縦3.4cm3.7 横径10.6cm	にぶい赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	側面全摩滅	
6住-1	フク	壺	古墳	12.3 4.2 -	黒褐色 黒褐色	赤色粒子を含む	内外-丁寧な横ばき	1/2
6住-2	フク	鉢	古墳	10.4 -	にぶい褐色 にぶい褐色	赤色粒子を含む	内-1縫合指げ 外-1指げ一横ばき 縫痕痕	口縁部1/4
6住-3	床直	円筒形 土器	古墳	- - 7	明赤褐色 橙色	白色粒子を含む	内-指頭痕 外-四方と角をげり	底部破片
7住-1	加ト 周	壺	平安	14.4 4.5 7	明黄褐色 明黄褐色	白、赤色粒子、雲母を 含む	吻び形 外-長い筒状糸切痕、一部剥離 器皿摩擦によりすりけり	口縁部3/4 欠損
7住-2	フク	壺	平安	14.3 4.2 6.5	明赤褐色 褐色	白、赤色粒子、雲母を 含む	外-林傳げ一ハカリ 底部回転 余型一ハカリ	2/5
7住-3	フク	壺	平安	12.8 4 5.2	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-吻び形 外-筒状糸切痕 底-筒状糸切痕	ほぼ完形
7住-4	フク	壺	平安	13 3.6 -	にぶい褐色 明赤褐色	白色粒子を含む	内-吻び形 外-口縁溝吻び形 体部ハカリ	口縁部1/8 底2/2
7住-5	フク	壺	平安	12.2 -	にぶい褐色 明赤褐色	白色粒子を含む	内-吻び形 外-口縁溝吻び形 副唇部ハカリ	口縁部1/4
7住-6	下肩	壺	平安	13.2 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	内-吻び形 外-1縫合部吻び形 体部ハカリ	口縁部1/4
7住-7	加ト 周	壺	古墳	17.6 -	にぶい褐色 褐色	白、赤、黒色粒子を含む	吻び形 内-1縫合部指げ 外-口縁部指げ	1/3
7住-8	加ト 内	高台付 壺	平安	- - 8.2	褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を 含む	内-ぼき 緋文 外-擦痕によりすりけり	底部破片
7住-9	フク	須恵 提瓶	古墳	- - -	灰色 灰色	白色粒子を含む	外-全体同心円状跡	体部破片
7住-10	下肩	壺	古墳	22.4 -	褐色 褐色一部黒変	白、赤、黒色粒子、雲母を 含む	内-横げ 外-1縫合指げ 副唇部横げ 底下膨げ 瓶部丁寧なハカリ	口縁部破片
7住-11	床直	壺	平安	19 -	にぶい赤褐色～褐灰色 明赤褐色	白、赤色粒子(粗い)、 雲母を含む	内-1縫合指げ 体部棒状工具 o 平竹外皮による横げ 外-口縁部指げ 体部5mm平竹 状工具を束ねた状工具による 横げ	口縁部破片
7住-12	上肩	壺	古墳	12.7 4 7.6	にぶい赤褐色 褐色～にぶい褐色	白、赤色粒子、雲母を 含む	内-ぼき 外-ぼき 体下～底部ハカリ	1/3
7住-13	床直	壺	古墳	10.4 3.8	灰黃褐色 灰黃褐色	白、赤色粒子、雲母を 含む	内-へり一ぼき	口縁部欠損
8住-1	下肩	須恵蓋	古墳	9.9 - -	灰色 灰色一部暗灰色	白、黒色粒子を含む	吻び形	縦槽～体部 破片
8住-2	床直	高壺	古墳	15.7 -	赤色 赤色	白、赤色粒子、雲母を 含む	内-下部へり一ぼき 外-全体凹 内外-口縁部指げ	口縁部破片

8住-3	床直	小甕	古墳	10.7 8.7 -	にぶい褐色 にぶい褐色	粗い赤、白色粒子、 雲母を含む	内-整形時 [△] 底 部横 [△] 上部横 [△] 底部木 雲母 外- [△]	23
9住-1	下層	坏	古墳	11.6 3.5 2.7	黒褐色 黒褐色	赤色粒子、砂粒（少量） を含む	内- [△] 外-口縁部指 [△] → [△] 体部 [△] 外 [△] 底部回転糸切り	23
9住-2	床直	瓶	古墳	9.2 6 4	明褐色 明褐色	白、赤色粒子、砂粒子 を含む	内-口縁部指 [△] 、底部 [△] 外- [△] 外 [△] 口縁部 [△] 底部中央盛 り上かる	14
9住-3	上層	高坏	古墳	- - -	橙色 橙色	砂粒子を含む	内外 [△] 外 [△]	断部のみ 1/2
9住-4	フク	高坏	古墳	- -	にぶい褐色 にぶい褐色	粗かな白色粒子の目立 つ砂粒を含む	内-脚部 [△] 外 [△] 外-脚部 [△] 、 [△] 外 [△]	底部破片
9住-5	上層	坏	古墳	12.1 3.7 3.7	褐色 褐色	白色粒子、砂粒を含む	内- [△] 外- [△] 底部 [△] 外 [△]	1/2
9住-6	上層	瓶	古墳	- - -	明褐色 明褐色	白、赤、黑色粒子、 雲母を含む	内- [△] 外-指 [△] 、 [△] 外 [△] 、重痕	把手等のみ
9住-7	下層	大型 坏	古墳	21.4 6.5 -	褐色 褐色	白色粒子の目立つ砂粒 を含む	内- [△] 、 [△] 口縁部横指 [△] 外-口縁部横指 [△] 体部 [△] ～底部 [△] 外-口縁部外反する小さな傷み	15
9住-8	フク	に [△] ヨ [△] 上器	古墳	- -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子、 黒雲母を含む	内- [△] 外- [△]	14
9住-9	フク	壺	弥生	- - -	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	砂粒子を含む	外-輪状文、波状文	脚部破片
9住-10	下層	甕	古墳	31.6 -	黒褐色 黒褐色	白色粒子の目立つ砂粒 を含む	内-口縁部横指 [△] 体部 [△] 9. 尾 [△] 外-口縁部横指 [△] 脚部 [△] 9.	口縁部破片
10住-1	床直	甕	平安	31.2 -	にぶい褐色～赤褐色 にぶい褐色～赤褐色	径2～3mmの白色繊、 白、赤、黑色粒子、 雲母を含む	内- [△] 外- [△]	脚下部～底 部欠損
10住-2	切口 周	鉢	平安	12.8 9.8	にぶい褐色（11線褐色） 黒褐色～赤褐色	白、赤、黑色粒子を 含む	内-口縁部付近横 [△] 外-熱による剥落が強しい 休薄下半 (武) 8.△△△	ほぼ完形
10住-3	フク	鉢	平安	6 -	黒褐色暗褐色 黒褐色暗褐色	やや粗い白色粒子が目 立つ赤、黑色粒子を微 量に含む	内- [△] ? 見込み部横 [△] 外-脚面 [△] 外 [△] 底部木葉痕	底部破片
10住-4	切口 内	小型甕	平安	15 8	にぶい褐色 黒褐色～灰褐色	白、黑色粒子、雲母を 含む	内-横 [△] 脚上部一部横 [△] 外-1 [△] 線部横 [△] 脚部 [△]	45
10住-5	フク	須恵 平瓶	平安	5 -	灰白色 灰白色	白、黑色粒子を含む	内-見込み部自然釉 外-脚部自然釉 底部自然釉焼付青 底部 [△] 1 [△] 1 [△] ?	肩部～底 部破片
10住-6	切口 内	甕	平安	20.8 -	橙色～朝赤褐色 橙色～朝赤褐色	白、赤、黑色粒子、 雲母を含む	内-脚部横 [△] 脚部横 [△] 外-口縁部横 [△] 脚部横 [△] 横横付近 に付 [△]	底部欠損
11住-1	下層	坏	古墳	11 3.1	にぶい橙色 褐色	赤色粒子が目立つ白、 黑色粒子、雲母も含む	内- [△] 外- [△]	45
11住-2	床直	坏	古墳	12.7 3.7 -	にぶい褐色～にぶい赤 褐色 にぶい褐色～にぶい赤 褐色	白、赤、黑色粒子と 雲母を含む	内- [△] 底部 [△]	完形
11住-3	床直	坏	古墳	12.7 3.8 -	褐色～朝赤褐色 褐色～朝赤褐色	白、赤、黑色粒子と 雲母を含む	内- [△] 外- [△] 、底部 [△]	3/5
11住-4	床直	瓶	古墳	- - -	灰褐色 灰褐色	白、赤色粒子、雲母を 含む	内- [△] ? 外- [△]	底部のみ
11住-5	床直	高坏	古墳	12.7 7.3 9.4	浅赤褐色～にぶい赤褐色 赤褐色～にぶい赤褐色	白、赤色粒子、雲母を 含む	内-丁寧な [△] 外-丁寧な [△] 脚部横 [△] 1 [△] 事な [△]	56
11住-6	床直	高坏	古墳	11.9 7.7 8.5	暗赤褐色 暗赤褐色～褐色	白、赤、黑色粒子、 雲母を含む	内- [△] 1 [△] 事な [△] 外-体部～脚部 [△] 1 [△] 事な [△]	口縁一部欠損

11住-7	下層	小型壺	古墳	12.8 14 6.7	赤色 一部黒変	白、赤色粒子、雲母を含む	内・横内メー横げ 外・斜縦カメー下部げ 底部・本葉痕 口縫横げ	ほぼ完形
11住-8	床直	壺	古墳	18.4 29.6 7.9	明赤褐色～暗赤褐色 褐色～にぶい赤褐色一部 黒変	白、赤色粒子、雲母を含む	内・口縫横げ 脚部横げ 脚下部 内・横内形～ばく打縫 外・カセメー？ 底部木葉痕	1/3
11住-9	床直	壺	古墳	19.2 27.6 8.5	にぶい褐色一部黒変 にぶい褐色一部黒変	内・横内指頭痕 外・カセ形～ばく打縫 横げ 底部木葉痕	内・横内指頭痕 外・カセ形～ばく打縫 内・縫内外横げ 底薄木葉痕	1/3
11住-11	床直	高杯	古墳	- -	橙色みこみ部明赤褐色 橙色みこみ部明赤褐色	やや粗い赤色粒子、雲母、白、黑色粒子含む	内・ざき 外・脚台部分縫げ 横方向の縫文あり	脚台部破片
11住-12	下層	鉢	古墳	9.9 8.6 -	にぶい褐色～灰褐色 にぶい褐色～灰褐色	粗い白、赤、黑色粒子と 雲母を含む	内・横げ 外・口縫部横げ 体溝ハサギ	2/1
11住-13	床直	壺	古墳	21.1 - -	にぶい黄色 にぶい黄褐色	白、赤、黑色粒子、雲母を含む	内・口縫、脚部横げ 外・側縫斜め方向ハサギ	II縫部破片
11住-14	下層	小頸壺	古墳	10.6 -	灰褐色 黒褐色	白、赤、黑色粒子と雲母を含む	内・横げ 外・ハサギ	II縫部破片
11住-15	下層	壺	古墳	21 32.9 6.7	にぶい褐色 にぶい橙色～赤褐色一部 黒変	白、赤、黑色粒子(粗い)、 雲母を含む	内・げ 外・上半部横ハサギ 下半部斜めハサギ 底部停止ハサギ 口縫横げ	3/4
12住-1	フク	壺	奈良	15 3.9 7.6	にぶい黄色～褐色 明赤褐色～淡黄色	やや粗い白、黑色粒子、 細かい赤色粒子、雲母を含む	内・体部5本の縫わ、十字結み文、 ばく 外・部横げ 下部回転ハサギ	3/4
12住-2	フク	壺	古墳	9.6 - -	灰黃褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内・口縫部丁寧なばく 体部ハサギ、 ばく 外・I-II部丁寧な横げキ 体部ハサギ →ばく横	1/4
12住-3	フク	壺	奈良	27 - -	明赤褐色 一部黒変	白、赤、黑色粒子、雲母を含む	内・上部斜メ、下部かく？ 外・斜一針	II縫部破片
12住-4	床直	壺	古墳	22.8 30.3 8.3	褐色、一部黒変 褐色、一部黒変	白、赤、黑色粒子、雲母を含む	内・口縫部横げ、脚部ハサギ工具による 調査痕 下部げ 外・げ	2/3
12住-5	フク	壺	古墳	22.2 - -	にぶい褐色 明赤褐色～褐色	白、赤、黑色粒子、雲母を含む	内・横め調整～ハサギ？ 外・口縫横痕げ 脚部縫く	II縫部破片
13住-1	フク	壺	弥生	- - 6	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白色粒子の目立つ砂粒 を含む	内・げ 外・全体均一調査一報ハサギ一横げ	上部欠損
13住-2	上層	壺	弥生	16 - -	褐色 褐色	白、黑色粒子、金色雲母を含む	内・げ 外・げ、波状文	口縫部破片
13住-3	下層	壺	弥生	17 - -	暗褐色 暗褐色	砂粒、金雲母を含む	内・ばく 外・縫わ	II縫部破片
13住-4	下層	壺	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂粒子を含む	内・かく 外・端部結節RL-LR繩文、4個一组の どくわ状點付文	頭部破片
13住-5	フク	壺	弥生	- - -	灰褐色 にぶい黄褐色	白、黑色粒子を含む	口縫部單圓LR繩文の網状旋文口縫 部横状沈文結部縫平行繩文	II縫部破片
13住-6	フク	壺	弥生	22.4 - -	灰褐色 灰褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	内・げ 外・口縫部斜み目 口縫下部波状文体 上部廉状文体下部波状文	II縫部破片
13住-7	下層	壺	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい黄褐色	砂粒子を含む	内・かく～ハサギ 外・かく～縫わばく	脚下部破片
14住-1	丸周	壺	古墳	16.8 7.7 5	黒褐色 灰褐色	白、赤、黑色粒子、雲母を含む	内・体部横ばく 外・体部横ばく	3/5

14住-2	下層	坏	古墳	12.9 4.1 5	にぶい褐色 褐色～にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-丁寧なびき 外-びき～ハカズリ	3/4
14住-3	下層	坏	古墳	11.5 4.8 4	灰褐色 にぶい赤褐色	白、赤色粒子、雲母 を含む	内-横げ 外-体下部ハカズリ	2/5
14住-4	上層	坏	古墳	11.8 4 -	明赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内外-器面全体にびき	7/8
14住-5	床直	坏	古墳	11.4 4.5 -	にぶい褐色 褐色	白色粒子を含む	内-ザーバキ 外-ハカズリ一びき	1/4
14住-6	床直	瓶	古墳	- - 3.6	赤褐色 褐色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-ケリ 外-縱横方向のびき	口縁部欠損
14住-7	床直	甌	古墳	17.5 14.7 5	橙色 黒褐色～橙色	白、赤色粒子、雲母 を含む	内-横けり、体下部使用により摩 滅?	5/6
14住-8	フク	台付甌	古墳	7.8 - -	黒褐色 褐色～淡褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-丁寧なび 外-横げ	2/5
14住-9	フク	甌	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子、金色雲母 を含む	内-横げ 外-新位カリ	破片
14住-10	フク	甌	弥生	15.4 - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-ゲ 外-口唇部三本隕帯	口縁部破片
14住-11	床直	甌	古墳	- - -	明赤褐色 褐色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-横けり 外-横けり	胴部破片
14住-12	フク	甌	弥生	18.2 - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤色粒子、金色雲母 を含む	内-ハカズリ 外-口唇部ギザギザ状文	口縁部1/8
15住-1	下層	坏	古墳	12.4 4 -	明赤褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-びき 外-ハカズ	口縁部1/4
15住-2	上層	大型坏	古墳	15.6 - -	灰褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-びき 外-ハカズ 体部ハカズリ一び	口縁部1/4
15住-3	下層	大型坏	古墳	17.2 - -	赤色 にぶい褐色	赤、黑色粒子、半透明粒 子を含む	内-丁寧なびき 外-口縁部丁寧なびき、体部ハカズリ	口縁部1/2
15住-4	上層	瓶	古墳	16.2 10.6 -	にぶい褐色(黒斑7%) にぶい褐色(黒斑7%)	白色、半透明粒子(石 英)を含む	内-口縫横け 体部横けり一びけり 外-口縫横け 体部横けり調整 底部横け	ほぼ完形
15住-5	下層	台付甌	古墳	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子、雲母を含 む	内-びき 外-ゲー一びき	脚部のみ
15住-6	下層	甌	弥生	- -	赤褐色 褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-丁寧なび 外-波状沈線文	胴部破片
15住-7	上層	甌	古墳	18 - -	にぶい褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内外-ゲ	口縁部のみ 3/4残
15住-8	フク	甌	古墳	- - 8.8	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-ハカズ 外-ゲ	底部破片
16住-1	フク	坏	古墳	13.4 3.4 -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む、 黒色雲母を含む	内-びき 外-体部びき 底部ハカズリ	1/8
16住-2	下層	坏	古墳	13.4 3.2 -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む	内-びき 外-頭部びき	1/8
16住-3	瓶 内	坏	古墳	13.6 5 -	にぶい褐色 にぶい褐色(半分は黒色)	赤色粒子が内外とも に目立つ	内-びき 外-ハカズリ一びき	完形
16住-4	瓶 内	坏	古墳	13.2 4.2 -	黒色、にぶい明黄褐色 にぶい褐色	赤色粒子が目立つ、 白色粒子、金色粒子 (隈か)	内-びき 外-口縫部ギザギザ 体部ハカズリ一びき	ほぼ完形
16住-5	中層	坏	古墳	13.6 5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-ハカズ 外-頭部ギザギザ 口縫部ハカズ ギザギ	口縁～体部 1/2
16住-5	下層	坏	古墳	12 - -	赤褐色 赤褐色	赤色粒子を含む	内-ゲー一びき 外-頭部ギザギザ 体部ハカズリ	1/4

16住-7	下層	坏	古墳	12.6 -	明赤褐色 橙色	白、赤、黑色粒子、金色 雲母を含む	内-ぼき 外-口縁部げ 体部ハタズリーボ	口縁部1/2
16住-8	床直	坏	古墳	12 4.3 -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む	内-ぼき 外-口縁部げ 体部ハタズリーボ	1/4
16住-9	床直	坏	古墳	10.9 3.7 -	にぶい赤褐色 黒褐色	白、赤、黑色粒子、雲母 を含む	内-ぼき(底部ハタズリ痕) 外-口縁部丁寧なぼき 体部ハタズ リーボ 体下部ハタズリ 内外とも に指板(口縁部)	4/5
16住-10	下層	坏	古墳	12.8 3.9 -	にぶい橙色～灰褐色 にぶい橙色～灰褐色	白、赤、黑色粒子、雲母 を含む	内-口縁部げ 一ぼき 体部ハタズ リーボ 外-口縁部丁寧なぼき 体部ハタズ リーボ	1/2
16住-11	下層	坏	古墳	13 3.8 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子	内-ぼき 外-頭部横げ 体部ぼき	2/3
16住-12	下層	坏	古墳	12 3.2 -	黒色 黒色	白色粒子、黒雲母を含 む	内-ぼき 外-頭部げ 一ぼき 体部ハタズリ	1/4
16住-13	中層	坏	古墳	11.6 4.5 -	黒褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子を含 む	内-ぼき 外-ハタズリーボ	口縁部～底 部1/3
16住-14	床直	坏	古墳	12.2 4.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子を含 む	内-底部ぼき 外-頭部ぼき 体部ハタズリーボ	口縁部3/4
16住-15	下層	大型坏	古墳	18 -	黒色 にぶい褐色～褐色	白、赤色粒子を含む	内-ミガキ 外-頭部ぼき 体部ハタズリ	1/4
16住-16	床直	大型坏	古墳	17 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	内-ぼき 外-ハタズリ	1/4
16住-17	下層	大型坏	古墳	20.4 -	褐色 褐色	砂粒子を含む	内-ぼき 外-ハタズリ、ミガキ	体部1/3
16住-18	床直	大型坏	古墳	18.4 -	黒色 暗褐色	白、赤色粒子、砂粒子 を含む	内-ぼき 外-ハタズリ、ミガキ	体部1/3
16住-19	中層	大型坏	古墳	16.6 -	褐色 褐色	赤色粒子、砂粒子を含 む	内-げ (一部ぼき?) 外-ハタズリ、ぼき	口縁部破片
16住-20	フク	坏	古墳	12.2 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	内-げ (一部ぼき?) 外-頭部ぼき 体部ハタズリ	1/8
16住-21	床直	大型坏	古墳	16.5 5.6 5.8 -	黒色 にぶい赤褐色	白、赤、黑色粒子、雲母 を含む	内-口縁部げ 体上部ハタズリ 体上半 ハタズリーボ 体下部ハタズリ 外-口縁部げ、体上部、上半、下部 ともにハタズリ 一ぼき	1/4
16住-22	下層	高坏	古墳	- 8	にぶい橙色 にぶい赤褐色	白、赤、黑色粒子、雲母 を含む	内-脚部ハタズリ 脚部横げ 外-脚部底ハタズリ 脚部横げ	脚部破片
16住-23	下層	高坏	古墳	- 8.3	にぶい赤褐色～灰褐色 にぶい赤褐色～灰褐色	白、赤、黑色粒子、雲母 を含む	内-脚部ハタズリ 脊部横げ 外-脚部底ハタズリ 脊部横げ	脚部破片
16住-24	上層	須恵坏	古墳	9.7 3.8 2.1	灰色 灰色	白、黑色粒子を含む	叩整形	4/5
16住-25	中層	須恵坏	古墳	9.7 3.5 2.8	灰色 灰色	白、黑色粒子を含む	叩整形	4/5
16住-26	下層	椭	古墳	12.4 -	橙色 にぶい橙色	赤色粒子を含む	内-げ 外-頭部げ 体部粗いけ	1/4
16住-27	下層	甕	古墳	20 - 6.6	暗赤褐色 暗赤褐色	大粒の白色粒子と砂 粒子を含む	内-口縁部げ 口縁部下半～頭部 ハタズリ 脚部横げ 外-口縁部上半丁寧なぼ	口縁部、底 部破片

16住-28	下層 内	甕	古墳	19.6 24.2 6.4	にぶい褐色 上にぶい赤褐色 下暗褐色	白、赤色粒子を含む	内-口縁上部横げ (指か) 口縁下部へげ (多) 体部へげ (少) 外-口縁部横げ (指か) 体部へ 一縱方向げ 体下部輪積み一 横げ 底部へげ	ほぼ完形
16住-29	下層	甕	古墳	17.8 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-頸部横げ 脣部横げ 外-頸深縫け	口縁部1/4
16住-30	下層 内	甕	古墳	18.6 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子、雲母を含 む	内-横け 橫げ 外-体部縫げ (?)	口縁部1/8
16住-31	下層	甕	古墳	21.2 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-口縁部横げ 脣部へげ 外-頸部へ横げ	口縁部1/4
16住-32	中層	甕	古墳	- -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤色粒子を含む	内-外へげ	頸部破片
16住-33	下層 内	甕	古墳	18 -	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-横へげ 指頭痕、輪積痕残 外-頸部横げ 体部縫げ	68
16住-34	下層	瓶	古墳	- -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む	内-げ 外-カムヘヘナゲ	把手部破片
16住-35	フク ^{上段 下段 (高环脚部)}	古墳	- -	-	褐灰色 褐灰色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-へげ 外-へげモーニー	脚部破片
16住-36	上層	須恵甕	古墳	22.2 -	灰白色 灰白色	砂粒子を含む	内-横げ、指頭痕 外-カムヘヘナゲ	口縁部破片
16住-37	上層	甕	弥生	- -	にぶい橙色 にぶい黄褐色～暗灰黃 色	粗い砂粒子を含む	外-魂文一沈線、磨消繩文	頭部、頸部 破片
16住-38	フク	壺	弥生	- -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-カムギキ 外-横げ(?)唇部折返、ヘナゲ	口縁部破片
16住-39	フク	甕	弥生	- -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-頸部指頭痕ありげ 外-備掛波状文	頸部破片 1/8
17住-1	下層 周	甕	古墳	13 4.5	にぶい黄褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-げ 外-カムギキ、カムギキ	ほぼ完形
17住-2	下層 周	甕	古墳	12.4 4	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子と金 色雲母を含む	内-げ 外-カムギキ、カムギキ	ほぼ完形
17住-3	下層	甕	古墳	12.2 4.8	赤褐色 黒褐色	白、黑色粒子、雲母含 む	内-げ 外-カムギキ、カムギキ	ほぼ完形
17住-4	下層 周	高环	古墳	4.8 4.8	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-环部げ 一カムギキ 脚部へげ 外-环部カムギキ一カムギキ 脚部ヘカムギキ	体部～脚部 2/3
17住-5	下層 周	高环	古墳	- -	にぶい褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-脚部げ 外部ヘカムギキ 外-脚部カムギキ	体部～脚部 1/2
17住-6	下層 周	台付甕	古墳	- -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子と金 色雲母を含む	内-口縁横げ 外-口縁横げ 脣部げ	ほぼ完形
17住-7	下層 内	甕	古墳	15 -	橙色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子と金 色雲母を含む	内-口縁横げ 脣部へげ 外-口縁横げ 脣部ヘカムギキ	1/8
17住-8	下層 内	甕	古墳	- -	明赤褐色 暗赤褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-横け 外-縦け	脚部1/3
17住-9	下層 周	円筒 土器	古墳	28 -	赤褐色 赤褐色		内-へげ？ 外-輪積紙、指頭痕ヘカムギキ、ヘナゲ	ほぼ完形

17住-10	切口 内	須恵蓋	古墳	---	灰色 灰色	白、赤、黒色粒子を含む	内-切口 外-切口	体部1/2
17住-11	切口 周	須恵蓋	古墳	---	灰色 灰色	白色粒子を含む	内-指付 外-指付	体部1/6
17住-12	下層	壺	古墳	11.4 -	黒褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-カナ 外-ハタズリーナ	口縁部～胴部1/3
17住-13	下層	甕	古墳	- 8	にぶい褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子を含む	外-カナ	胴部～底部1/8
18住-1	フク	壺	弥生	12 -	にぶい褐色 黒褐色	白、黒色粒子を含む	内-ナ 外-口唇部のみ 頸部廉状文 脊部斜行短線文	口縁部・胸部破片
18住-2	下層	壺	古墳	- 6	にぶい橙色 にぶい褐色	白色粒子	内-ナ 外-内調整一丁寧なハナ	胸部～底部2/3
18住-3	フク	甕	弥生	---	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-カナ 外-ボキ	口縁部破片
18住-4	下層	壺	弥生	---	灰色 灰色	白色粒子を含む	外-波状沈線文	口縁部破片
18住-5	フク	壺	弥生	-	灰褐色 灰褐色	白色粒子を含む	内-ナ 外-横描波状文	胴部破片
18住-6	フク	甕	弥生	-	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白色粒子を含む	内-カナ 外-横描波状文	胴部破片
18住-7	フク	甕	弥生	-	灰褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-カナ 外-櫛推波伏文	胴部破片
18住-8	フク	甕	弥生	-	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	外-頸部櫛推平行線文 脚部斜行短線文	胴部破片
18住-9	フク	甕	弥生	-	にぶい褐色胴部赤褐色 にぶい褐色胴部赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-ナ 外-頸部櫛推平行線文 脚部赤影	頭部～胴部破片
18住-10	フク	甕	弥生	---	にぶい橙色 橙色	白、黒色粒子を含む	内-ナ 外-波状文	胴部破片
18住-11	上層	壺	古墳	12.8 -	黒色 橙色	白・赤色半透明粒子	内-カナ一丁寧なナ 外-口唇部のみ 頸部縫合 脚部カナ一縫ボキ	口縁部のみ1/8
18住-12	上層	壺	古墳	- 6	明暗褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ボキ 外-カナ一縫ボキ	底部1/4
18住-13	上層	壺	弥生	-	灰褐色 灰褐色	白・赤色粒子	内-カナ 外-一般カナ一縫ボキ	胴部1/6
18住-14	上層	壺	弥生	---	にぶい黃褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-カナ 外-カナ一縫ボキ	頭部1/2
18住-15	床直	壺	弥生	- 14.4	橙色 橙色	白、赤色粒子を含む	内-ナ 外-カナ一縫ボキ、指頭痕	底部のみ1/6
19住-1	床直	壺	古墳	12.8 4.8 -	にぶい橙色 粉色	白、黒色粒子を含む	内-底部ボキ 外-ハタズリーボキ	ほぼ完形
19住-2	床直	壺	古墳	- 6	にぶい赤褐色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ボキ 外-ハタズリーボキ	底部破片
19住-3	切口 内	甕	古墳	- 6	暗褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子と金色雲母を含む	内-横ボキ 外-横ボキ	1/2
19住-4	床直	甕	古墳	- 6.2	にぶい橙色 にぶい褐色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ボキ 外-ハタズリーボキ 底部木葉痕	底部1/6

20住-1	フク	坏	古墳	11.8 4.3 -	暗赤褐色 暗赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内外-ぼき	口縁部1/8
20住-2	好ト周	坏	古墳	11.8 3 -	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	外-口縁部ハサギリ	口縁部破片 1/6
20住-3	フク	瓶	古墳	4.8 8.4	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-制部上部げ 外-制部上部ハサゲ	胴部1/4
20住-4	フク	瓶	弥生	- - 6	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	外-粘土貼付一げ	口縁部破片
20住-5	フク	甕	弥生	- - 6	暗赤褐色 暗赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	外-櫛縁波状文	口縁部破片
20住-6	好ト周	甕	古墳	20 -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-口縁部げ 外-胴部縁け	口縁部～胸 部1/4
22住-1	下唇	坏	古墳	3.4	にぶい褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-げ 外-1横横がげ	体部ハサギリ
22住-2	フク	須恵器	古墳	12 4.3 -	黄灰色 黄灰色	白、黒色粒子を含む	内外-時切げ	1/4
22住-3	床直	須恵 長振巻	古墳	- 23.7 -	黄灰色 褐灰色	白、黒色粒子を含む	内外-時切げ	ほぼ完形
23住-1	好ト周	坏	古墳	12.4 3.6	赤褐色 にぶい褐色	赤、黒色粒子を含む	内-げ 外-口縁部がげ	体部がげも底部ハサギリ
23住-2	好ト周	坏	古墳	12 3.9	灰褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-口縁部げ 外-口縁部がげ	体部がげの剥 落、ハサギリ
23住-3	床直	坏	古墳	- - 6	にぶい褐色 褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-ぼき 外-ハサギリ-ぼき	底部1/8
23住-4	好ト周	坏	古墳	12.4 4.4	にぶい褐色 にぶい褐色	赤色粒子を含む	内-げ 外-口縁部がげ 内-口縁部がげ 外-口縁部がげ	体部ハサギリ 底部ハサギリ
23住-5	床直	坏	古墳	11.6 4 -	赤褐色(やや褐色に近 い) 赤褐色(やや褐色に近 い)	白、黒色粒子を含む	内-げ 外-口縁部がげ	体部ハサギリ
23住-6	床直	坏	古墳	16 8.1	褐色 褐色	2mm赤色粒子、1mm 白、黒色粒子を含む	内-げ 外-口縁部がげ-ぼき 体部ハサギ リ-げ?	ほぼ完形
23住-7	床直	甕	古墳	24.8 25 -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-げ 外-口縁部がげ	胴部木葉痕
23住-8	床直	甕	古墳	20.8 -	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-げ 外-口縁部がげ	胴部け
23住-9	フク	甕	古墳	16 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内外-げ	口縁部破片 1/16
23住-10	好ト内 内	長胴甕	古墳	18.6 -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、透明 粒子を含む	内-口縁部横げ 外-口縁部横げ	体上部横けげ 体上部縦けげ
23住-11	床直	小型 土器	古墳	- - -	赤褐色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-げ 外-げ	底部木葉痕
23住-12	好ト内	台盤状 土製品	古墳	4.6 3 7	明赤褐色 碧色	白、赤、黒色粒子、黑色 雲母を含む	内-底部ハサギリ 外-指痕痕	完形
23住-13	床直	甕	古墳	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-かくーげ 外-げ	胴部1/8
23住-14	床直	■	古墳	21 6.6 17	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-横げ 外-縫合つぶれ、横け	完形
25住-1	上唇	坏	古墳	11.6 4.9	灰黄褐色 灰黄褐色	白、赤、黒色粒子、雲母 を含む	内-げ 外-口縁部がげ 体部ハサギリ	口縁部2/3

25住-2	上層	坏	古墳	12.5 -	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黑色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫部指げ、ぼき 体部上部 ハタリ-ぼき 下部ハタリ	ほぼ完形
25住-3	上層	坏	古墳	12.6 4.1 -	赤色 赤色	白、赤、黑色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫部指げ、ぼき 体部ハタリ	ほぼ完形
25住-4	上層	坏	古墳	13.4 - -	暗赤褐色 暗赤褐色、にぶい橙色	赤色粒子を含む	内-ぼき? 外-口縫部指げ-ぼき? 体部ハタリ 一ぼき?	口縫部1/4
25住-5	下層	坏	古墳	13.6 - -	にぶい橙色 にぶい橙色	赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ底部ハタリ、赤切痕	ほぼ完形
25住-6	上層	坏	古墳	13.2 3.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ-ぼき 底部ハタリ	口縫部1/2
25住-7	下層	坏	古墳	12 -	赤褐色 赤褐色	白、赤色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫～ハタリ-ぼき 底部ハタリ	ほぼ完形
25住-8	上層	坏	古墳	13 3.6 -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫～体部ハタリ-ぼき 底部 ハタリ-ぼき	口縫部1/2
25住-9	上層	坏	古墳	13 - -	暗褐色 黑色	黑色粒子含む	内-ぼき 外-口縫部指げ-ぼき 体部ハタリ スリ-ぼき	口縫部1/3
25住-10	上層	高坏	古墳	14 5 -	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黑色粒子を含む	内-口縫部指げ-ぼき 体部ハタリ 一ぼき 外-体部ハタリ-ぼき	口縫部破片
25住-11	上層	坏	古墳	9.1 3.4 -	灰褐色 にぶい褐色	白、黑色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ 体部～底部ハタリ	口縫部1/2
25住-12	上層	賣	古墳	19.4 - -	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	白、赤、黑色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ 脚部のみ	口縫部1/6
25住-13	上層	賣	古墳	21.4 8.8 -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤、黑色粒子を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ 脚部のみ	口縫部破片
25住-14	上層	賣	古墳	14.8 9.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ 脚部のみ	口縫部1/2, 脚部1/8
25住-15	フク	瓶	古墳	- - 5	黑色 にぶい褐色	白、黑色粒子、雲母含む	内-ぼき 外-体部ハタリ-ぼき 底部ぼき	底部破片
25住-16	上層	賣	古墳	- - 7.2	灰黃褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-横げ 外-口縫部横げ 体部丁寧なげ	口縫部破片、底部のみ
25住-17	上層	高坏	古墳	15.4 16.5 16	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黑色粒子、雲母を含む	内-ぼき 外-制部ハタリ 底部ハタリ-ぼき	口縫部1/2
25住-18	フク	瓶	古墳	8.2 - -	黒褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内外-ぼき	口縫部破片
25住-19	床直	坏	古墳	- - 4.2	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黑色粒子を含む	外-頭部～胸上部ハタリ 胸下部ハタリ-げ	脚部～底部 口縫部のみ 欠損
25住-20	上層	賣	古墳	16.8 - -	暗褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	内-ぼき 外-口縫部ハタリ 脚部のみ	口縫部1/6
25住-21	上層	賣	古墳	23 - -	にぶい赤褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	内-ハタリ 黑曜石含む	口縫部破片
25住-22	上層	賣	弥生	---	にぶい褐色 明赤褐色	白、赤、黑色粒子を含む	まろや状貼付文 RL-LR羽状縞文	脚部破片
25住-23	フク	賣	弥生	---	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	まろや状貼付文 RL-LR羽状縞文	脚部破片

26住-1	フク	にげア 土器	古墳	6 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	黒色粒子含む	外-げ	1/3
26住-2	フク	甕	弥生	16.4 -	赤褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-げ 外-横描波状文	口縁部破片
26住-3	フク	甕	弥生	-	黑色 褐色	赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-横 外-頭部指頭板 体部横け	口縁部破片
26住-4	床直	壺	古墳	9.4 14.4 6	にぶい黃褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-口唇部げーばき 外-口唇部横け 体部横けー縦横 け 以及びげ 底部へげり	完形
27住-1	床直	甕	古墳	17 20.6 6.8	にぶい黄褐色 灰黄褐色	白、赤、黒色粒子、黑色 雲母を含む	内-げーばき 外-口縁部横け 脚部上部横けげ 下部横けげ	口縁部1/2
27住-2	床直	瓶	古墳	-	黒褐色 黑褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	外-へばき	底部のみ
28住-1	床直	甕	弥生	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	11縦特げ 内-か調整ーげーばき 外-げ 波状文	口縁部破片
28住-2	床直	壺	弥生	-	にぶい褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	波状粘付文、櫛齒状工具による 羽状施文	脚部破片
28住-3	床直	碗	古墳	14.4 9.5 5.8	黒褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子、雲母を 含む	内外-げ	口縁部1/4
28住-4	床直	甕	古墳	24 - -	にぶい褐色 にぶい橙色	白、黒色粒子を含む	内-げーばき 外-横描波状文	口縁部1/8
28住-5	床直	高环	古墳	22 - -	にぶい褐色 赤褐色	白、黒色粒子を含む	内外-口縁げ 体部げーばき	1/2
28住-6	下層 土製物 すい車?	弥生					中央に貫通した孔1つ、表-5孔 (非貫通)、中央の孔裏-中央の 孔のみ、表面から孔あけを行っ ている表面バット工具で僅かにげ	
28住-7	下層	瓶	古墳	- 4.4	にぶい橙色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	外-へばき	底部1/3
29住-1	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-げ 外-横描波状文	口縁部破片
29住-2	フク	甕	弥生	23.6 7.4 -	にぶい褐色 にぶい橙色	白、黒色粒子を含む	内-げ 外-口縁-銅部横描波状文、頭部廉 状文 口縫部のみ	口縁部のみ 1/2
29住-3	フク	甕	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	内-横 外-縫	口縁部破片
29住-4	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-げ 外-横描波状文	脚部破片
29住-5	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-横 外-RL縫文	脚部破片
29住-6	フク	甕	古墳	11.3 -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-へばき 外-脚部横描波状文、げ	脚部のみ
C3 SD-I-1		碗	古墳	9 8.6 -	にぶい黄褐色 明黄褐色	赤、黒色粒子、金色 雲母を含む	内-口縁部げ 体部~底部げー ばき 外-7.6 大鉢剥落 口縁部げ 体部 へばきーばき 底部へばき	完形
C3 SD-I-2		坏	古墳	13 3.5 -	褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-体部げ 外-7.6 大鉢剥落 口縁部げーばき 体部へばき 底部へばき	1/4
C3 SD-I-3		大型坏	古墳	18 6.8 -	褐色 にぶい黄褐色	白、赤色粒子、金色 雲母を含む	内-口縁部げーばき 体部へば きーばき 外-口縁部げーばき 体部へば きーばき 底部へばき	2/3
E7-SD	下層	壺	古墳	- - -	灰黄褐色 灰黄色	白、赤、黒色粒子を含 む	内-げ 外-へばきーばきーばき	脚部破片

包-1	表採 上層	更 新	弥生	14 -	赤褐色 赤褐色	白、灰色粒子、金色雲母を含む	内口縁部打痕キ 外丸2つ、腹状文	口縁部破片
包-2	表採 上層	甕 甕	弥生	15.6 -	黒褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-打 外-丸2つ状貼付文、ニバヌ文	口縁部破片
包-3	表採 上層	甕 甕	弥生	- -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黑色粒子を含む	内-打 外-丸2つ状貼付文、ニバヌ文	頸部破片
包-4	C-3	甕 甕	弥生	- -	にぶい黄褐色 にぶい褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	内-打 外-口唇部剥み目、内-打、縦横波状文	口縁部破片
包-5	表採 上層	甕 甕	弥生	- -	灰褐色 灰褐色	白、赤、黑色粒子、金色雲母を含む	内-打 外-縦横波状文	胴部破片
包-6	F-2	坏 坏	古墳	12.6 -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤色粒子、金色雲母を含む	内-打 外-丸2つ、内-打	1/6
包-7	F-2	坏 坏	古墳	14.2 3.8 -	赤色 赤色	粗い赤色粒子を含む	内-打 外-口縁部打痕キ	1/2
包-8	F-2 F-3	坏 坏	古墳	13 4 -	灰褐色-黒褐色 灰褐色-黒褐色	赤色粒子を含む	内口縫部微打、見込部打痕キ 外-体上部打痕キ 体下部打痕キ	口縫部欠損
包-9	F-3	坏 坏	古墳	12.7 3.9 -	橙色 橙色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横打 外-横打、体下部打痕キ	4/5
包-10	F-3	坏 坏	古墳	11.9 3.2 -	にぶい橙色 にぶい赤褐色	白、赤、黑色粒子、雲母を含む	内-打 外-体部横打、底部打痕キ-打痕キ	1/2
包-11	F-3 F-2	坏 坏	古墳	13 - -	にぶい橙色 にぶい橙色	赤、黑色粒子を含む	内-打 外-口縫下部打痕キ 体部打痕キ	1/2
包-12	F-3 他	坏 坏	古墳	13.8 - -	黒褐色 黒褐色	砂粒子を含む	内-打 外-丸2つ、内-打	1/4
包-13	F-3	坏 坏	古墳	13 3 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	内-打 外-丸2つ、内-打	1/2
包-14	E-3	須恵坏	古墳	12 3.5 -	褐灰色 黄灰色	白色粒子を含む	吻部整形 底部打痕キ	口縫部1/4
包-15	E-4 包合網	坏 坏	古墳	11.2 - -	にぶい褐色 黒褐色	赤色粒子を含む	内-打 外-口縫部打痕キ 底部打痕キ-打痕キ	1/4
包-16	B-3	坏 坏	古墳	12 3.5 -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤色粒子を含む	内-口縫部打痕キ、打痕キ 外-口縫部打痕キ、打痕キ 体部打痕キ、打痕キ 底部打痕キ、打痕キ	2/3
包-17	表採	坏 坏	古墳	13 3.9 -	にぶい赤褐色 黒褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横打 外-横打、体下部打痕キ	3/4
包-18	G-6	坏 坏	古墳	12 4 -	赤褐色 赤褐色	砂粒子を含む	内-打 外-丸2つ、内-打	1/5
包-19	B-2	須恵坏	古墳	10 3.3 -	灰白色 黄灰色	白、黑色粒子を含む	吻部整形 内-横打 外-指打の持ち上げ痕跡	口縫部1/4
包-20	3往 (C-3)	坏 坏	古墳	7.8 - -	褐色 褐色	赤、黑色粒子を含む	内-口縫部打痕キ 外-丸2つ、内外ともに剥落多い	口縫部破片
包-21	E-7	須恵		---	灰色 灰色	白色粒子を含む	外-打痕キ	
包-22	D-4 土器 上器		古墳	6 3.1 4	褐色 褐色	白色粒子を含む	内-輪積痕	1/4
包-23	3往 (高坏)		古墳	4 2.5 3	にぶい赤褐色 褐色	白、赤、黑色粒子、黒雲母を含む	手づくね 外-口縫部打痕キ？ 脚部打痕キ	2/3

包-24	C-2	二重ア 土器	古墳	- - 3	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	内・赤色付着物	1/4
包-25	D-4	二重ア 土器	古墳	- - 3.4	褐色 黒褐色	白、黒色粒子を含む	内・ヘタギリ	1/2
包-25	F-3	二重ア 土器	古墳	- - 3.2	明褐色 明褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内・ナゲ 外・ヘタギリ	1/2

出土石器観察表

出土位置	層位	器種	重さ	たて(cm)	よこ(cm)	厚さ(cm)	石材	備考
8住-4	フク	凹石	4.8kg	17.0	17.0	11.5	安山岩	
10住-7	フク	磨製石斧	(222g)	—	4.5	2.7	蛇紋岩	先端部横方向崩り痕、側縁部に棱を作り出す
11住-10	フク	磨製石鏃	4.7g	4.9	2.2	0.3	蛇紋岩	先端部に棱あり、基部に剥離痕残
14住-13	カマド内	環製支脚	1.8kg	19.5	7.5	6.5	砂岩	上部熱を受けず摩滅あり
14住-14	カマド内	環製支脚	2.5kg	22.5	9.0	14.0	砂岩	上部平坦、下半部に被熱著しい
15住-9	床直	凹石	2.1kg	13.5	12.0	9.5	安山岩	
23住-15	床直	台石	12.0kg	41.0	23.0	9.0	安山岩	
23住-16	床直	台石	12.0kg	39.0	17.0	10.0	安山岩	
23住-17	床直	台石	22.0kg	50.0	27.0	10.0	安山岩	
包-27	D-4	凹石	2.5kg	19.5	16.0	8.0	安山岩	

25号竪穴住居跡出土編物石状礫観察表

遺物番号	重量(kg)	長さ(cm)	形状
82	0.92	13.6	棒状
83	0.58	10.7	棒状
84	0.92	14.2	棒状
85	0.80	11.5	棒状
86	0.57	9.2	円板状
87	0.83	13.8	棒状
88	0.59	13.4	棒状
89	1.12	11.0	円板状
90	0.41	9.0	棒状
91	0.64	13.4	棒状
92	0.50	10.3	棒状
93	0.61	12.2	棒状

遺物番号	重量(kg)	長さ(cm)	形状
94	1.22	12.8	棒状
95	0.43	11.8	棒状
96	0.39	10.6	棒状
97	0.56	13.8	棒状
98	0.45	12.0	棒状
99	0.65	13.2	円板状
100	1.39	12.2	球状
101	0.84	13.6	棒状
102	0.66	12.0	棒状
103	0.72	11.0	棒状
104	0.58	11.8	棒状

青銅・鉄製品観察表

出土位置	層位	種類	重量(g)	直徑(cm)	備考
1住-19	フク	耳環	6.0	2.2	金メッキ? 一部剥落あり 青銅製
1住-20	1住周	耳環	23.2	3.0	金メッキ? 青銅製
B-3 SD-1	フク	腕輪	7.2	6.7	断面横長長方形で表裏面を平坦に作り出す 青銅製
包-28	重複区	筋縫車	—	—	サビがはげしい 鉄製

ま と め

上横屋遺跡は報告したように、弥生時代後期・古墳時代後期及び奈良・平安時代の集落遺跡である。ここでは弥生時代後期と古墳時代後期について特徴と課題を記し、まとめとしたい。

・弥生時代後期

弥生時代後期の遺構としては、13・18・26・27・28・29号竪穴住居跡、F7土坑群の中で十個焼成後穿孔のある廻廊部片(F7SD-1)の出土した土坑がある。いずれの住居跡からも量的には少ないが該期の土器が出土しており、前後関係はあると思われるが同一時期の範疇で捉えられるものである。

遺跡内全体の出土傾向としては、中部高地系では櫛状波状文や簾状文等の施文されたものや、南信地域概期の土器文様の一特徴であると指摘されている櫛状縦線文の施文されたものが出土している。東海系ではコンバス文の施文されたもの(18-3)(胎土が在地の土器群とは異なることから搬入品の可能性もある)また、胎土や調整などの特徴からF7SD-1と同一個体の可能性が高い)や折返し口縁に棒状貼文をもつもの(14-10)などが出土している。東京湾岸系の久ヶ原式的な文様構成を持つもの(16-37)が出土している。該期におけるこのような各地域の要素を持つ土器の混在化はすでに指摘されていているが、上横屋遺跡でも同様な傾向であることを確認し得た。しかし、何を背景にしてこのような他地域の系統のものが当地域の土器群の一部として存在するのかの解明は今後の課題である。

・古墳時代後期

上横屋遺跡の中心となる古墳時代後期後葉といえど、この時期の集落は、並崎をはじめ北巨摩郡の中でもその確認例は並崎市堂ノ前遺跡や須玉町腰巻遺跡など極めて少ない。このような中で、1・6・9・8・11・14・15・16・17・19・20・22・23・25号竪穴住居跡及びおそらく該期のものと考えられる掘立柱建物跡3棟を確認したことは当地域の古墳時代後期の様相を知る上で有効な資料をもたらしたといえる。また、これまでの発掘調査の中で得ることのできなかった該期の情報が多分得ることができた。それらの情報を各個別にまとめておきたい。

＊立地について

本遺跡の立地する藤井平では該期の遺跡立地に特徴が見られる。前後する時期には藤井平のなかでも偏った分布は見られないが、この時期は、上横屋遺跡周辺にしか遺跡が発見されていない。南北に長い藤井平ではあるが該期の遺跡はここだけである。第1・2図に見られるように、上横屋遺跡を東西に坂井堂ノ前・後田堂ノ前・後田第2遺跡において住居跡が発見されている。上横屋遺跡とこれらの遺跡との間には沢が南北に流れている。從来こうした立地での集落は河川流域単位で縦に区分けされる場合が多かった。しかし、この地域でのあり方は河川を超えた集落の存在を示するものかもしれない。またその西限に、火雨塚古墳

が存在している。そして、火雨塚古墳以西に住居跡を持つ遺跡が発見されていないことから、推測ではあるが該期の生活空間内での、古墳(墓域)と住居跡(居住域)の分化が見いだせそうである。ここではその可能性の提示にとどめ、今後の資料増加を待ちたい。

＊カマド構造の個性について

上横屋遺跡では古墳時代後期のカマドを10基調査した。古墳時代後期といえば全國的にカマドが普及する段階でありその普及の在り方にも様々な見解が論じられている。今回の調査でカマドの構造に多様性が認められたことから、その多様性について紹介し、課題を述べておきたい。

1号竪穴住居(第4図):カマドは竪穴東壁中央やや北寄りに位置し、袖石は3つが残っていた。粘土層が明瞭に残り、断面からは掛け口と思われる部分が見うけられる。煙道は約1mあり、本遺跡内で最も長い。遺物は小型の台付壺、甕が出土している。

8号竪穴住居(第9図):カマドは竪穴北壁に位置する。袖石は2つ残っている。掘り込みは見られず、燃焼面には硬化した張り床が焼けた状態で検出された。これは、著しい硬化が見られるまで床面として使用されていた場所に、掘り込みを作らずに、カマドを作り変えている可能性があるかもしれない。

11号竪穴住居(第11図):カマドは竪穴東壁やや南寄りに位置する。袖石は、機能時の原位置をとどめず、3つ残っている。住居を造るときにまず周溝を堀り、その後、周溝にまでかからない程度の深さの掘り込みを作っている。周溝を切らずにカマドが作られている例である。カマド自体の残りは悪く、カマドの廃棄行為が行なわれていたかもしれない。カマド内から遺物は出土しなかった。

なおこの住居跡では、焼成材の下(床底)に完形遺物の川土が見られる。それとは対照的にカマド内から完形土器は出土しなかった。

本住居における状況はカマドが壊れていることからも失火による焼失とは考えにくい。むしろ、カマドの廃棄行為の後、住居内に土器類を遺棄し、住居を焼失させたかのように見える。本遺跡内からは、このような出土状況を示す焼失住居跡は他にない。11号竪穴住居は、住居の廃棄行為の場が、カマドにとどまらず住居全体であった可能性があるといえよう。なお、この住居跡では覆土中から蛇紋岩製の磨製石器が出土している。

14号竪穴住居(第17図):カマドは竪穴東壁中央に位置し、掛け口を明瞭に確認できるなど極めて良好な遺存状態であった。

カマドの掘り方を掘削後に、袖石を2組以上用い、竪穴壁と煙道との交わる部分に大型の磯を配し天井石とし、周りを粘土質の土などによりカマドを構築している。なお、袖石を立てるための掘り込みは認められず、袖石となる磯を

簡単に据えて構築している。

燃焼面は炊出口から約50cmのところにあり、礫製支脚が2点倒れた状態で出土した。煙道は豎穴壁から約80cmあり、本遺跡の中でも長い部類に入る。

本カマドは、上横屋遺跡内においてカマド機能時の状態を知り得る数少ない一つである。

16号堅穴住居(第18図) : カマドは堅穴北壁中央に位置し、袖石や天井石は崩壊した状況であった。

長胴窓2個体、球形窓2個体が出土するなど遺物は多く出土している。カマドの構造自体はほとんど復元できないが、カマド内に直径15~20cmの礫が出土しており、これらが構築材として用いられていた可能性がある。燃焼面には図示したように小礫を敷き詰めその上面を燃焼面としたことを確認している。

17号堅穴住居(第16図) : カマドは堅穴南壁中央に位置し、構築粘土の流出や袖石・天井石の崩落した状況であった。

円筒型土器(17-9)や台窓鉢(17-6)などがカマド内から出土したほか、カマド周辺からの遺物の出土も多かった。袖石は1組であり堅穴窓の立上がりとほぼ同位置にある。このことから掛け口は堅穴外に存在していたことは疑いようもない。このことは、住居空間と堅穴空間が必ずしも一致するわけではなく、堅穴外にも住居空間が存在していたことを示しているといえる。堅穴外に住居空間が存在することを確認した例としては、長坂町石原田北遺跡、埼玉県桶ノ下遺跡などを挙げることができ最近そのような報告が相次いでいる。本住居もこののような一例として挙げることができよう。

20号堅穴住居跡(第25図) : カマドは堅穴東壁中央に位置し、天井部は崩壊した状態であった。袖石は2組以上である。カマド内からは長胴窓の脇部片以外の遺物は出土しなかった。袖石を設置後に構築土(粘土)で固める際に袖石上に直径5~10cm程度の礫を構築材として使用していた。補強材として用いたのか、カマド構築時の儀礼・祭的な行為の意味(例えば、カマド構築時の儀礼・祭的な行為の結果)を持つものかは明確である。このような例は本遺跡ではこの1例のみである。また、周辺にある同時期の遺跡においても確認されておらず特異な構築方法である。

23号堅穴住居跡(第26図) : カマドは堅穴北壁中央に位置し、天井部は崩壊した状態であった。カマド内から台盤形状上製品等が、カマド周辺から灰が出土した。天井石は確認できなかったが、袖石が2組以上あり、その周りを土(粘土)で固めたものである。構築方法は14、15号堅穴住居のカマドに類似し、本遺跡内で一番多い在り方である。

以上のように本遺跡のカマドの多くは崩壊(カマド施設行為の可能性が高い)しているものが多いものの、その構築方法は各堅穴住居で多様であることが理解できよう。このような様々なカマド構築方法が本遺跡以外でどのような広がりを持つのか今後検討していく必要があるとともに、規格化されていると考えられるがちな該族のカマド構築を

合めた住居構造について検討していくことが今後必要であろう。

* 窯の出土状況について

古墳時代後期の堅穴住居跡の報告例をひととくと、遺物出土状況図に礫がまとまって図示されているものが意外と多い。これらの礫は床面に接する状態のものや覆土上部から出土しているものなど様々であるが、ここで注目しておきたいのは、床面に接する状態でまとまりを持つものと覆土中に敷き詰めた状態のものである。本遺跡では前者の例としては22-23号堅穴住居跡を、後者の例としては16号堅穴住居跡を挙げることができる。

まず22号堅穴住居跡であるが、第27図に図示したように堅穴内北西隅から中央にかけて床面から覆土上部にかけて礫がまとまって検出できた。覆土の観察からこれらの礫のうち少なくとも床面に接するかもしくは若干浮いた状態で出土したもののは流れ込んだものではないものと判断した。この隙間から須恵器の長頸瓶(22-3)が埋埴していたもののほぼ完形の状態で出土した。このような長頸瓶は集落内から出土することはなく、ましてや堅穴住居内からの出土例は皆無に等しく、本来は古墳の副葬品として用いられることが多い。

23号堅穴住居では、南西角とカマド西側(左側)に床面に接する状態で礫のまとまりが認められた。その他にも床面に接して、台石や壺などが出土している。このようなことは、台石や壺などの遺物が発掘時の状況になったと同じくして、礫のまとまりが人為的に堅穴内に形成されたと考えるべきであろう。

22、23号堅穴住居跡で見られたような礫のまとまりを、単なる流入なのか、住居の付帯施設や住居廃絶に伴う行為(たとえばカマド破壊に伴う行為といった指摘)なのかの判断は、調査時における視点の持ちらで異なるとは思うが、それであればなおさら、資料を記録として残すことが肝要であろう。

* 古墳時代後期堅穴住居廃絶後のくぼ地利用の一例

縄文時代の堅穴住居廃絶後のくぼ地利用についての報告や研究は枚挙に暇がないが、弥生時代以降となるとそのような視点は少ないと感じるのは気のせいだろうか。古くは山内清男が「凹地に廃物を捨てることは古今を通じて同じであるらしい。弥生・古墳時代の堅穴にも同様の事実が認められる」と指摘したように、縄文時代と同じように弥生時代以降にもくぼ地利用が行なわれていたことは疑いようもないであろう。その一例を紹介しておきたい。

16号堅穴住居跡は、遺跡内でも極めて特異な状況であった。覆土の堆積状況を中心に住居廃絶段階から順に追って説明を加えておく。床面直上に堆積する層は、炭化物や焼土粒子を多量に含む黒褐色で形成され、材の形状をとどめているものも散見された。以上のことからこの層は、住居廃絶に伴う焼却に起因するものと考えられる。第4・5層の上面には第二段面とした大型の礫を南北約2m・東西約2

mのや不整な長方形に配してあった。その上には一層はさんで第一礫面とした第二礫面と同じく大型の礫を配してあったが、礫面の広さは南北約4m・東西約6mであり、第二礫面よりも大きく、外周に小礫を用いている点に違いがある。いずれの礫面も縄文時代の敷石住居のような半坦な面を形成しているわけではないが、明らかに人為的に礫を配しているとしか考えられない状況であった。第一礫面と第二礫面にはさまれた2a層は極めて柔らかく、粘性の強い黒褐色土色で、炭化物や骨片を含んでいた。

以上のように本住居跡は、住居廃絶後にその堅穴を利用して、礫を敷き、炭化物や骨片を生成するような行為を行なっていたことを把握できた。骨片が人骨であるかどうかは不明で、その行為自体の追求までは及ばなかったが、その存在等から葬送儀礼的な行為を彷彿とさせる。また、該期の研究では、住居跡の出土遺物を一括同時存在と考える傾向があるように思えるが、くぼ地利用の存在等を考えると、遺物の山上位置(平面・垂直)を把握すべきという研究者の指摘もえたものであろう。本住居跡の出土遺物も型式学的に分別は不可能であるが、層位的には明らかな違いがあることを考慮すべきである。

*銅製耳環について

茎崎市では耳環の出土は初めてである。茎崎市のみならず山梨県内においても春日井町梅沢入古墳、御坂町圓分塚古墳群、八代町御崎古墳などから出土しているが、全体的には出土例は少なく、極めて貴重な資料といえる。上横屋遺跡からは古墳時代後期の1号堅穴住居跡の覆土およびその周辺から2点出土した。

1-19は直径2.2cm、断面径5mmで小型細環であり、1-20は直径3.0cm、断面径7.5mmで大型太環である。いずれも銅芯耳環である。全国的に大型太環の増加を6世紀中葉以降に認められることや1号堅穴住居の時期を考慮すると、2点の耳環が6世紀後半から7世紀初頭の所産であることを指摘できよう。

耳環の多くは古墳から出土しており、上横屋遺跡のようでは墓域以外から出土することは少ないようである。このことは山梨県内においても違はない。しかし、例えば、須玉町腰谷北遺跡や東京都あきる野市代謝・富士見台遺跡などでは、本遺跡と同様に住居跡内から耳環が出土している。

上横屋遺跡では、住居の覆土上層とその周辺からと、2点出土している。この住居跡に近接する土坑からは、銅製腕輪が出土しており、いずれも銅製品の単なる流れ込みとしては扱えない状況である。このような出土例を前に、耳環が古墳から出土する副葬品であるという單一的な認識を再考する必要性を感じる。耳環には、古墳被葬者レベルでの副葬品としての意味とは別に、集落内での権威者レベルでの威信材あるいは集落全体の社会的財産としての意味などといった、多様な性格がありうるということが、住居跡からの出土例で読み取れるのではないかろうか。今後は、古墳以外からの耳環の出土例を、単に特例や流れ込みとす

るのではなく、あるがままの多様な形で分析の俎上に載せていく必要があろう。

*土壤サンプルについて

調査中に出土したほぼ完形の遺物内に含まれていた土壤を中心に採取した。採取したものは、乾燥させた後に水洗選別により人工・自然遺物の採取を試みた。以下にサンプル毎に採取結果を簡単に触れておく。

・1号堅穴住居跡 坚穴中央の上層および下層から採取した。水洗選別した結果、上層からは、若干の土器片を含む他は小砂利のみであり、炭化物は採取できなかった。下層からは、統の種子と思われる炭化物を確認した。

・22住-3 この須器は出土状況からゴミとして堅穴内に廃棄されたというよりも、何らかの意味を持って置かれたと考えられ、器内に何らかの物を入れてあったのではないかと想え水洗選別したわけであるが結果的には、同個体の破片および小砂利のみであった。裏を返せば、堅穴内に持ち込まれたときには、器内を十分に満たすほどの圓形容器は存在しておらず、器内は空であったか、液体のようなものが入っていた可能性が高いといえるのではないか。

・25住-19 この土器は口縁部を欠いていたが、床面に接する状態で出土したものである。水洗選別の結果、直徑3mm程度で断面形態が円形や方形の炭化物とともに粗粒の炭化物が若干確認できた。

以上のように、今回行った水洗選別により完形または完形に近い遺物内に炭化物等の内容物を把握できるものは皆無であった。このことは、遺物廃棄(広義の廃棄)時に遺物内には多くの場合内容物は存在していなかったか、または遺存しない内容物であったことを示しているのではないかだろうか。

発掘調査の目的は、破壊されてしまう遺跡の単なる記録保存にとどまらず、出土した遺構・遺物といった資料を史料化することである。それには発掘調査時に遺構・遺物がどのような状況で確認されたかを目的意識をもって調査していく必要がある。

本報告書は非常に限られた時間の中で、発掘調査の中で記録した情報の資料化を試み、それらを掲載・提示したに過ぎない。今後、上横屋遺跡の資料の史料化や活用がなされれば幸いだと思うとともに、私達調査担当者もそのようなことの実現に向けて日々努力していく所存である。

写 真 図 版



上横屋遺跡遠景

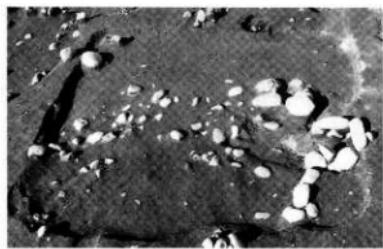
図版 1



1号竖穴住居跡（南より）



1号竖穴住居跡カマド



5号竖穴住居跡（南より）



5号竖穴住居跡カマド



5号竖穴住居跡完掘状況（南より）



10号竖穴住居跡カマド

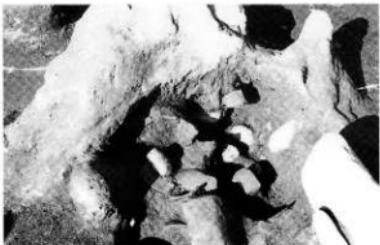


10号竖穴住居跡（北より）

図版 2



10号竪穴住居跡（南より）



10号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況



11号竪穴住居跡遺物出土状況（西より）



11号竪穴住居跡遺物出土状況アップ①



11号竪穴住居跡遺物出土状況アップ②



調査風景



15号竪穴住居跡（南西より）



15号竪穴住居跡カマド

図版 3



19号竪穴住居跡（東より）



19号竪穴住居跡カマド確認状況



20・23号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）



23号竪穴住居跡遺物出土状況（アップ）



23号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況



26号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）

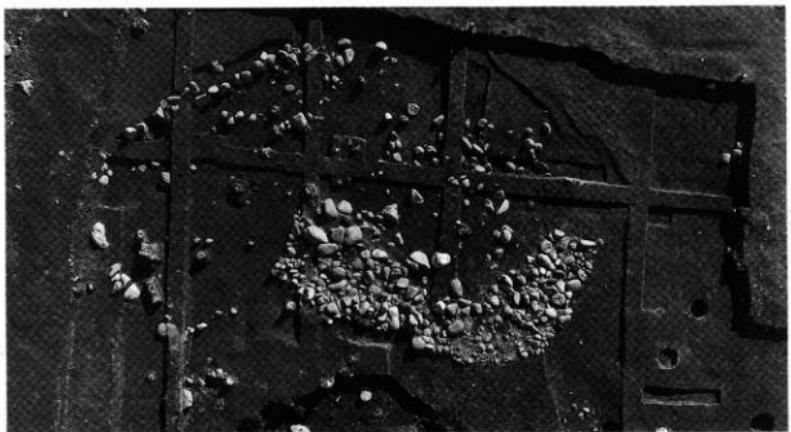


26号竪穴住居跡遺物出土状況アップ（南より）

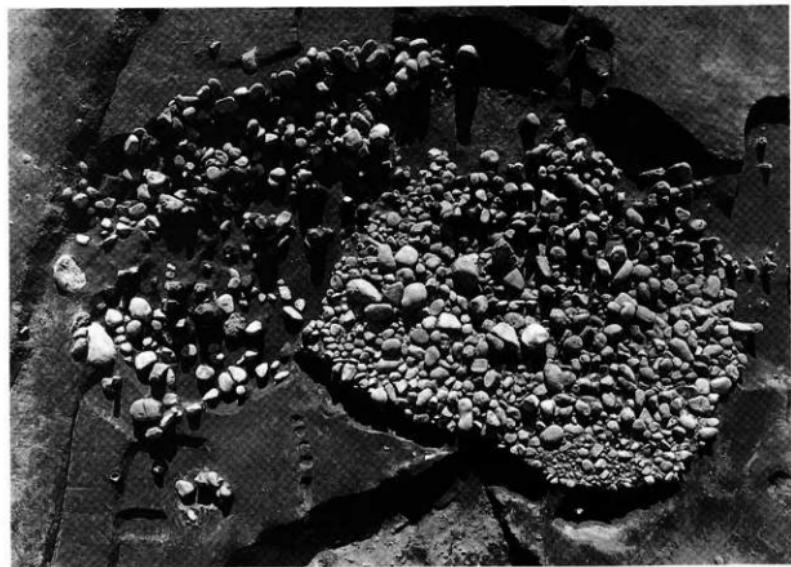


調査風景

図版 4



14・16号竪穴住居跡確認状況（上空北より）



14・16号竪穴住居跡疊出土状況（上空北より）

図版 5



16号竪穴住居跡第1礫面（南より）



16号竪穴住居跡第2礫面（南より）



16号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況



17号竪穴住居跡遺物出土状況（南より）



17号竪穴住居跡完掘状況（南より）



17号竪穴住居跡遺物集中区



17号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況①



17号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況②

図版 6



14号竪穴住居跡（西より）



14号竪穴住居跡カマド



18号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）



22号竪穴住居跡遺物出土状況（南より）



22号竪穴住居跡遺物出土状況アップ



25号竪穴住居跡（北より）



25号竪穴住居跡上層遺物出土状況（北より）

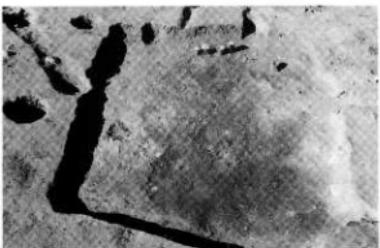


25号竪穴住居跡石出土状況（北西より）

図版 7



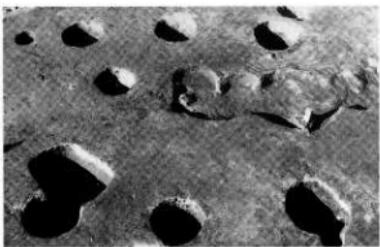
27号竪穴住居跡完掘状況（西より）



28号竪穴住居跡遺物出土状況（南より）



1号掘立柱建物跡（南より）



2号掘立柱建物跡（東より）



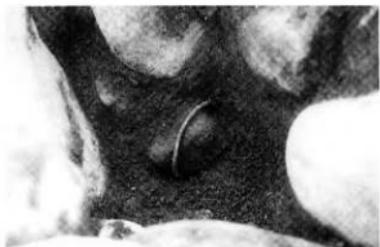
C3-1号土坑遺物出土状況（南より）



C3-1号土坑遺物出土状況（北より）



B3-1号土坑遺物出土状況（北より）

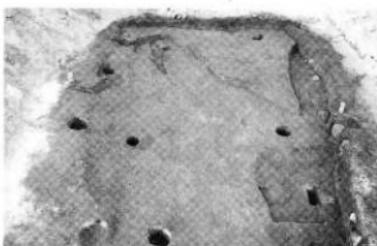


B3-1号土坑青銅製腕輪出土状況

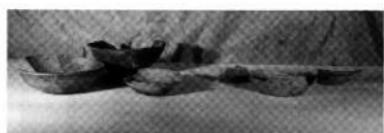
図版 8



畝状遺構（南より）



溝状遺構（南より）



5号住出土遺物 7号住出土遺物



11号住出土遺物



10号住出土遺物



17号住出土遺物



12号住出土遺物 22号住出土遺物



16号住出土遺物



23号住出土遺物



10号住出土遺物



耳環

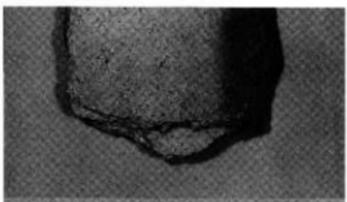
青銅製腕輪



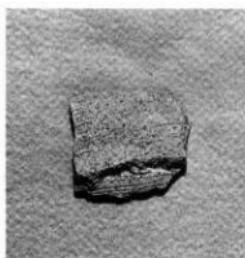
12号住出土壺の内面①
(十文字の線刻を焼成後に施文)



12号住出土壺の内面②
(格子目文状の線刻を焼成後に施文)



14号住出土長胴甕部片の接合痕
(接合面に凸状の粘土隆起が見られることから、他方の接合面には刻み目を施していた可能性がある)



16号住出土長胴甕部片の接合痕
(接合面にもハケメ調整が見られる。
調整痕なのか、遊離しないための
方法なのかは、不明である)

編集後記

現場をたたむころには、今年何度目かの雪が降り、八ヶ岳からの風が冷たく吹きつけていました。限られた時間の中での作業は、これだけの豊かな情報を持ちえた遺跡を存分に表現するにはきわめて厳しいものでしたが、この報告が多くの方々のお目にとまり、今後多くの方々に遺物を実見し、ご活用いただければ、このうえない喜びです。

多くの人々の御協力をいただき、ここに上横屋遺跡の報告ができあがりました。ご助言・御協力いただいた多くの方々に、感謝申し上げます。

上 横 屋 遺 跡

—— 店舗建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

発行日 平成11(1999)年3月31日

発 行 莺崎市教育委員会
莺崎市遺跡調査会

〒407-8501
山梨県莺崎市水神1-3-1
TEL 0551-22-1111 (内250)

印 刷 有限会社 タクト / 印刷・デザイン

